

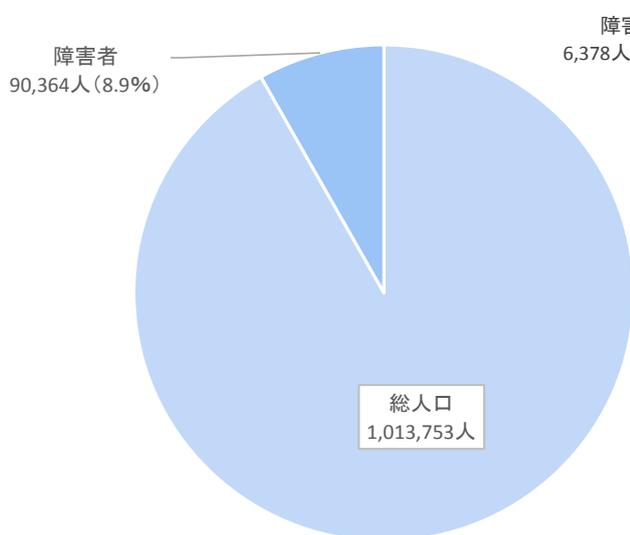
第2章 障害のある人の現状

1 総合的な現状

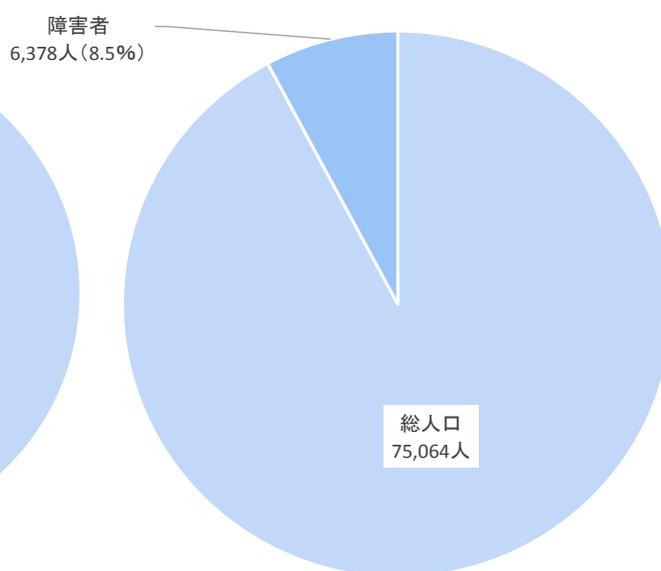
大館市の障害者（児含む。以下同じ）数は、6,378人（平成28年3月31日現在）で、大館市の人口75,064人（平成28年3月31日現在）の約8.5%にあたります。

内訳は、平成28年3月31日現在、身体障害者4,410人、知的障害者732人、精神障害者1,236人となっています。

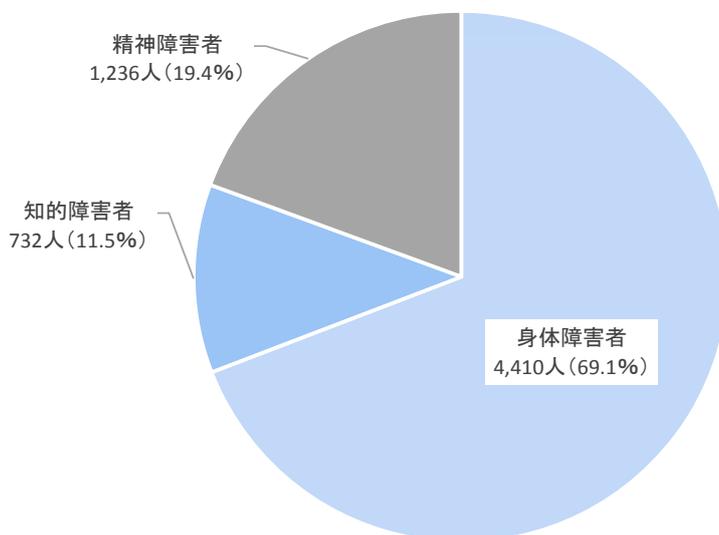
秋田県の人口に対する障害者の割合
平成28年3月31日現在



大館市の人口に対する障害者の割合
平成28年3月31日現在



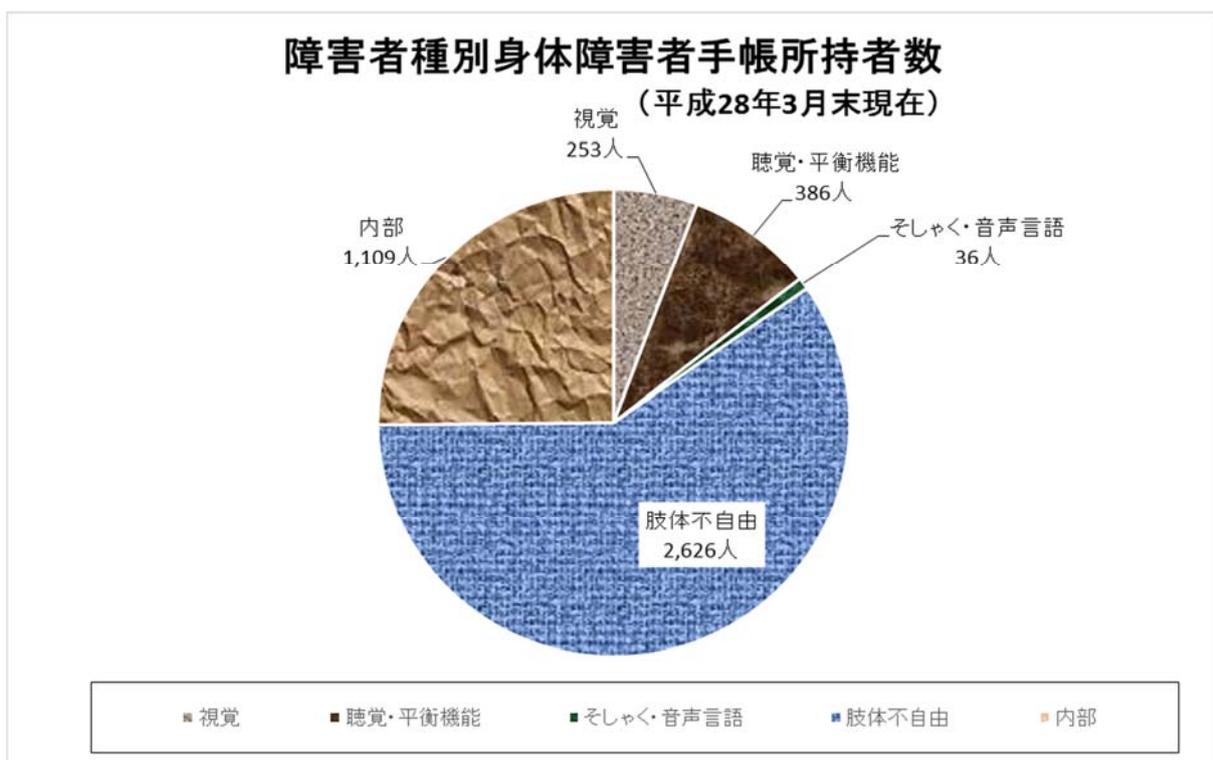
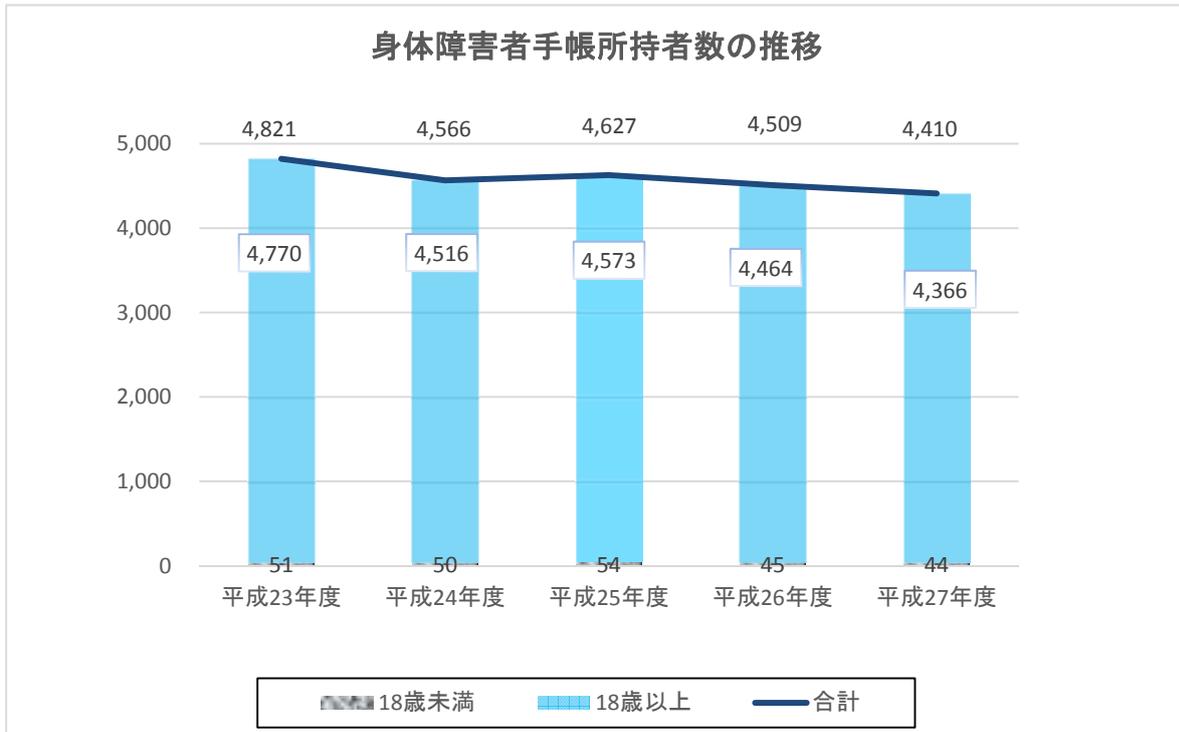
大館市の障害別内訳 平成28年3月31日現在



2 身体障害者の現状

本市の身体障害者手帳所持者は、平成28年3月末現在で4,410人となっております。

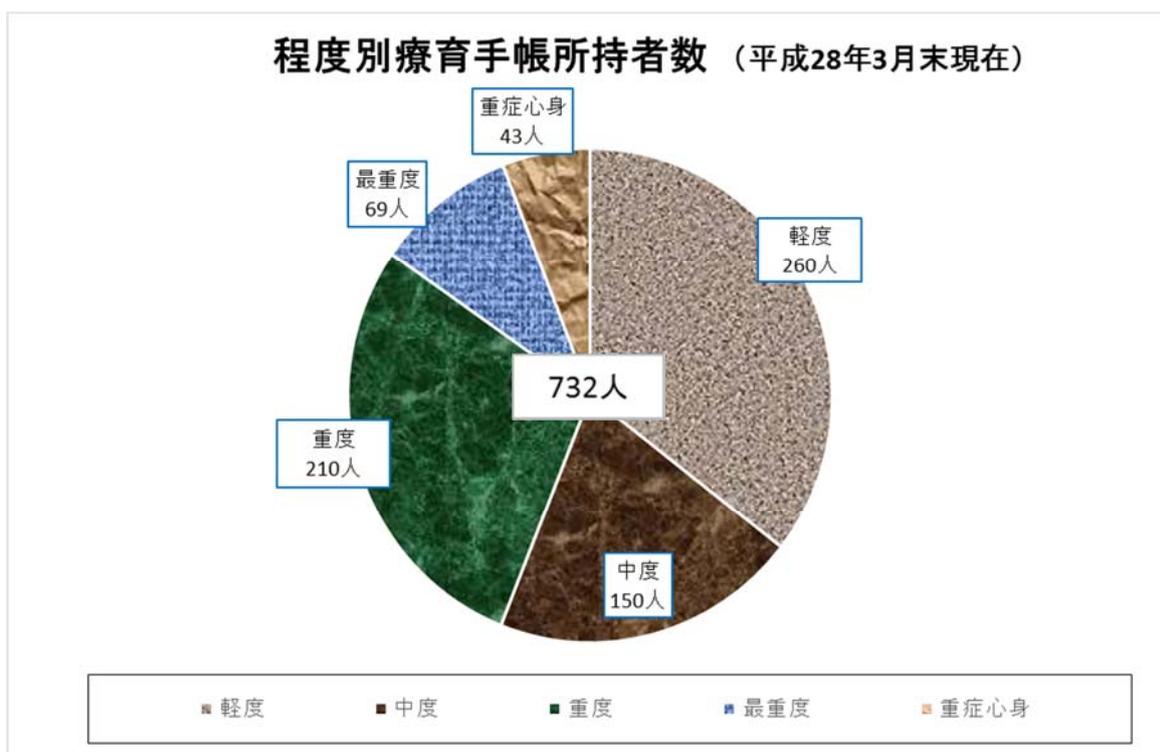
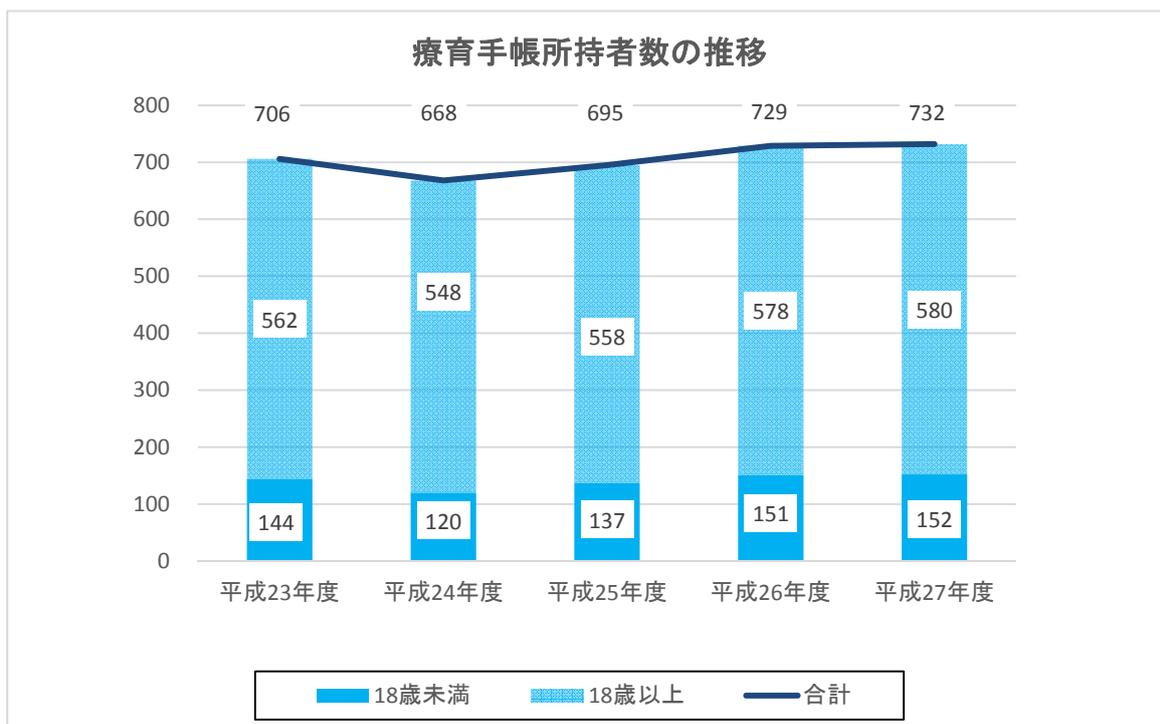
18歳未満、18歳以上の年齢2区分別で見ると、18歳未満は平成28年3月末現在44人、18歳以上は、平成28年3月末現在4,366人となり全体の約99%を占めています。



3 知的障害者の現状

本市の療育手帳所持者は、平成27年3月末現在の729人が、平成28年3月末現在では732人となり、1年間で3人増加しています。

18歳未満、18歳以上の年齢2区分別で見ると、平成27年3月からの1年間でどちらも増加しており、18歳以上は平成28年3月末現在580人で、全体の約80%を占めています。

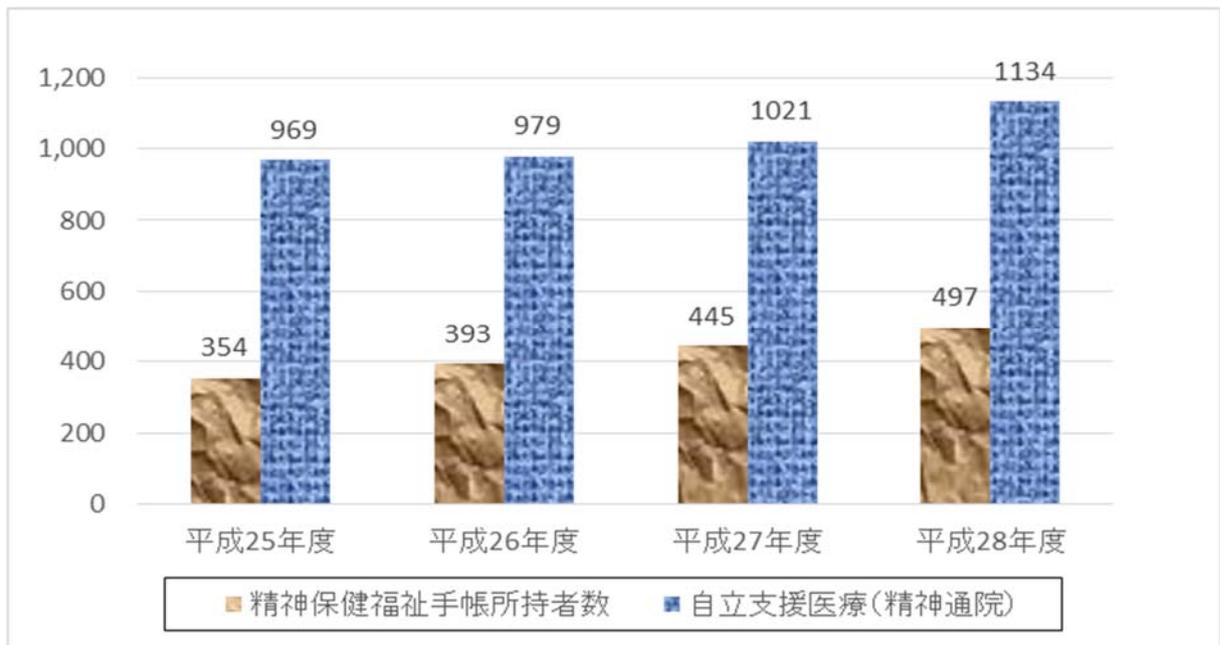


4 精神障害者の現状

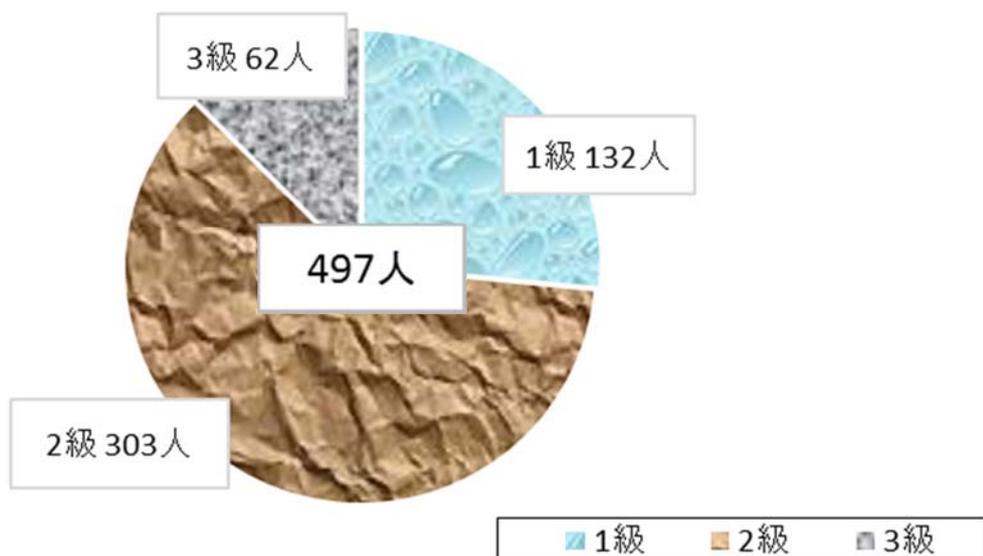
本市の精神障害者保健福祉手帳所持者数は、平成28年度497人であり、前年度より52人増加しています。

なお、自立支援医療費の受給者数から精神障害者の状況を見ると、平成28年度では1,134人であり、精神障害者手帳所持者の約2.2倍になっています。

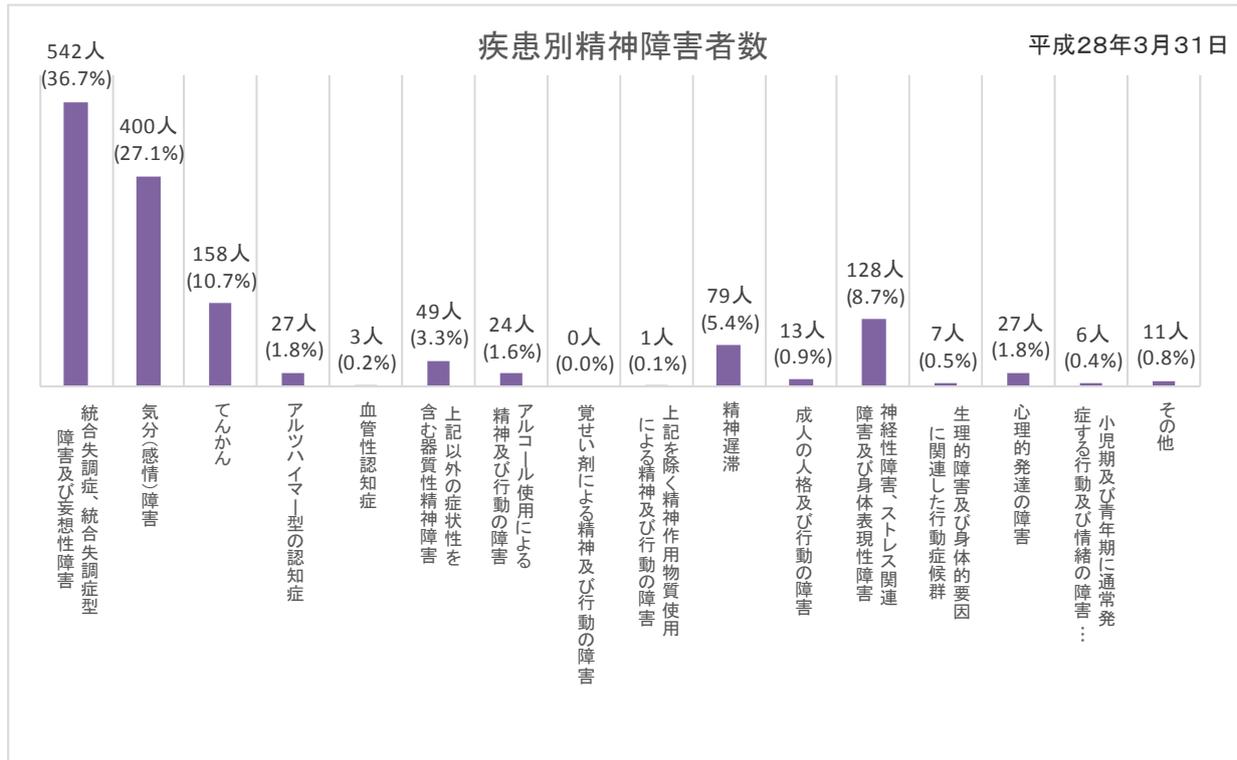
精神障害者手帳所持者数及び自立支援医療費（精神通院）受給者数



等級別精神障害者手帳所持者（平成28年3月時点）



～ 第2章 障害のある人の現状 ～



5 難病患者の現状

難病…原因不明で、かつ、治療方法が確立していない疾病であって、長期にわたり療養を必要とするもの。

本市における難病等のある人の数は年々増加傾向にあり、平成28年3月31日現在の特定疾患医療受給者証の交付者数は、718人、小児慢性特定疾患医療受給者証の交付者数は、80人となっています。

◆特定疾患医療受給者証・小児慢性特定疾患医療受給者証の交付件数推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
特定疾患医療受給者証	573	598	642	631	718
小児慢性特定疾患医療受給者証	71	78	69	62	80
合 計	644	676	711	693	798

～ 第 2 章 障害のある人の現状 ～

特定疾患病名別患者数

各年 3 月 31 日現在

疾患名		年度	平成 26 年度	平成 27 年度
1	球脊髄性筋萎縮症		1	1
2	筋萎縮性側索硬化症		7	12
5	進行性核上性麻痺		7	7
6	パーキンソン病		108	117
7	大脳皮質基底核変性症		2	2
11	重症筋無力症		11	13
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎		20	23
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー		1	1
17	多系統萎縮症		9	14
18	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く。）		34	38
22	もやもや病		10	12
34	神経線維腫症		3	3
35	天疱瘡		5	5
37	膿疱性乾癬（汎発型）		4	4
40	高安動脈炎		5	5
42	結節性多発動脈炎		2	2
43	顕微鏡的多発血管炎		5	6
44	多発血管炎性肉芽腫症		0	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		0	2
46	悪性関節リウマチ		1	1
47	バージャー病		4	4
49	全身性エリテマトーデス		34	36
50	皮膚筋炎／多発性筋炎		10	10
51	全身性強皮症		21	23
52	混合性結合組織病		4	4
53	シェーグレン症候群		0	3
54	成人スチル病		1	4
55	再発性多発軟骨炎		1	1
56	ベーチェット病		13	13
57	特発性拡張型心筋症		18	18
58	肥大型心筋症		1	1
60	再生不良性貧血		13	13
63	特発性血小板減少性紫斑病		20	20
65	原発性免疫不全症候群		1	1
66	IgA腎症		1	1
67	多発性嚢胞腎		0	1
68	黄色靱帯骨化症		3	4
69	後縦靱帯骨化症		51	63
70	広範脊柱管狭窄症		3	3
71	特発性大腿骨頭壊死症		18	22
73	下垂体性 TSH 分泌亢進症		0	1
74	下垂体性 PRL 分泌亢進症		3	3
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		6	6
78	下垂体前葉機能低下症		7	6
81	先天性副腎皮質酵素欠損症		0	1
84	サルコイドーシス		27	29
85	特発性間質性肺炎		7	10
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症		1	1
90	網膜色素変性症		16	16
93	原発性胆汁性肝硬変		16	18
95	自己免疫性肝炎		0	1
96	クローン病		26	29
97	潰瘍性大腸炎		70	78
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症		0	1
227	オスラー病		0	2
271	強直性脊椎炎		0	2
	合計		631	718

※大館保健所集計より

6 障害福祉に関するアンケート調査

障害のある方のアンケート調査結果について

1 調査の目的

平成29年度から始まる「第3次大館市障害者計画」の基礎資料として、また、今後の障害者福祉施策推進などの参考資料とすることを目的に実施しました。

2 調査の概要

(1) 調査対象者

市内在住（在宅）の障害者手帳所持者（18歳以上）から無作為に以下の人数を抽出しました。

区分	人数（H28.6.1現在）	郵送	施設※	回答
身体	4,358人	600人	160人	340人
知的	681人	40人		106人
精神	600人	60人		71人
計	5,639人	700人	160人	517人

※施設については、就労継続支援事業所の利用者を対象に調査を実施しました。

※アンケート調査回収率60.1%（調査860人・回答517人）

(2) 調査方法

郵送による配布、郵送による回収

（施設については、施設管理者に協力を依頼して施設管理者が利用者に配布し、回収しました。）

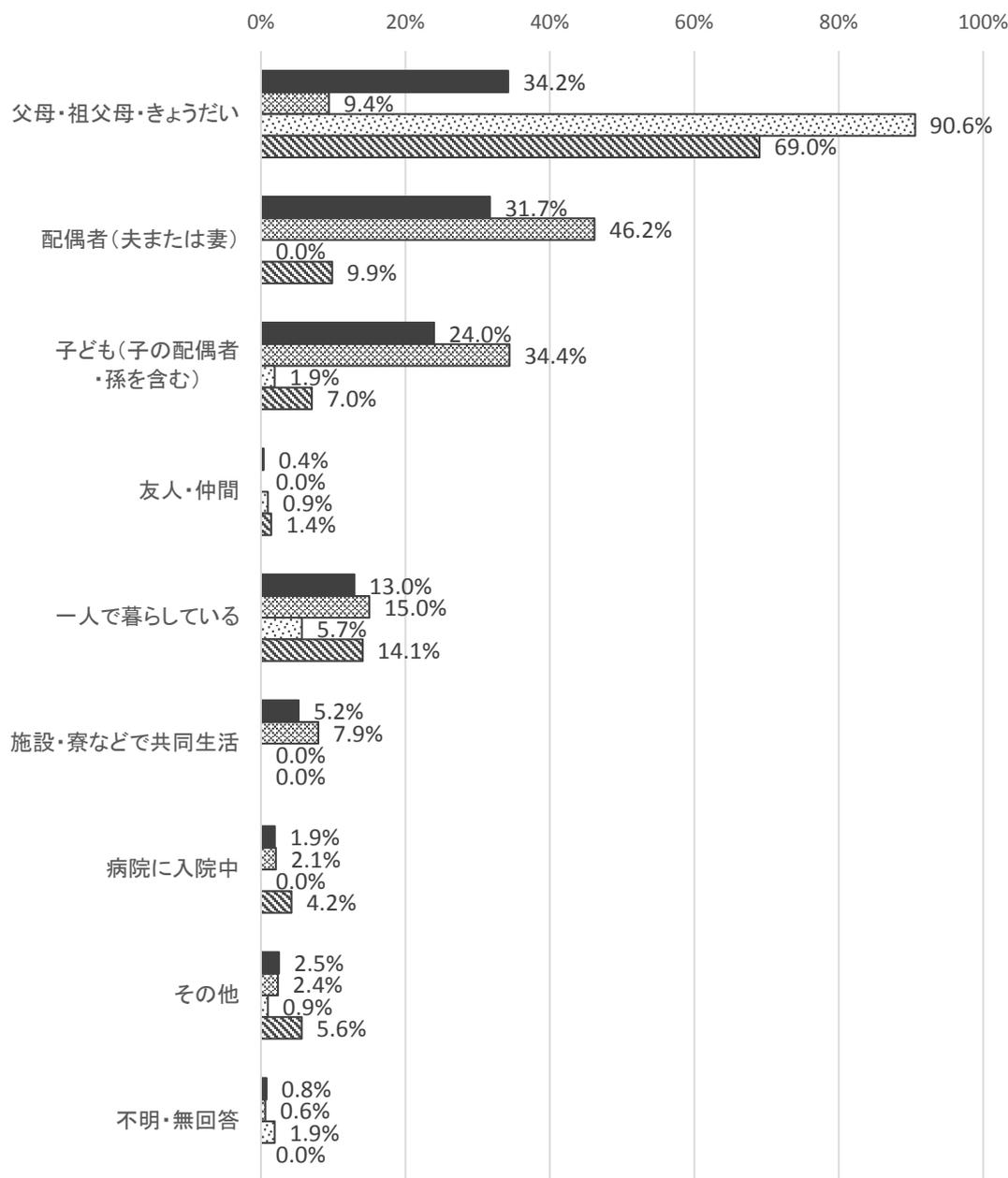
(3) 調査期間

平成28年8月8日から8月31日まで

①世帯の状況について

一緒に暮らしている人について、全体では「父母、祖父母、きょうだい」が34.2%と最も多く、「配偶者」が31.7%、「子ども」が24.0%と続いています。

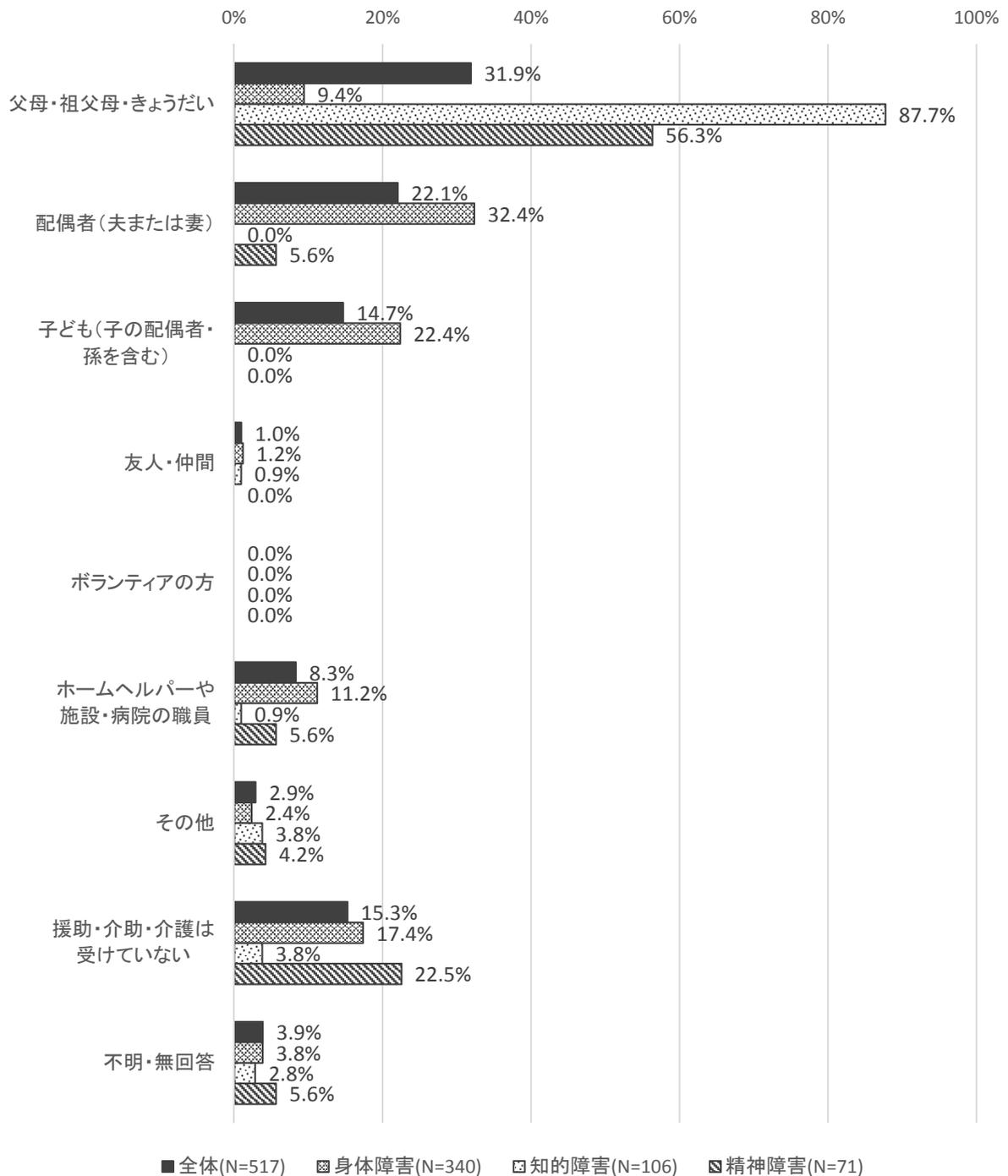
障害種別では、身体障害のある方は「配偶者」が46.2%、知的障害のある方と精神障害のある方は「父母、祖父母、きょうだい」がそれぞれ90.6%、69.0%と最も多くなっています。



■ 全体(N=517) ■ 身体障害(N=340) ■ 知的障害(N=106) ■ 精神障害(N=71)

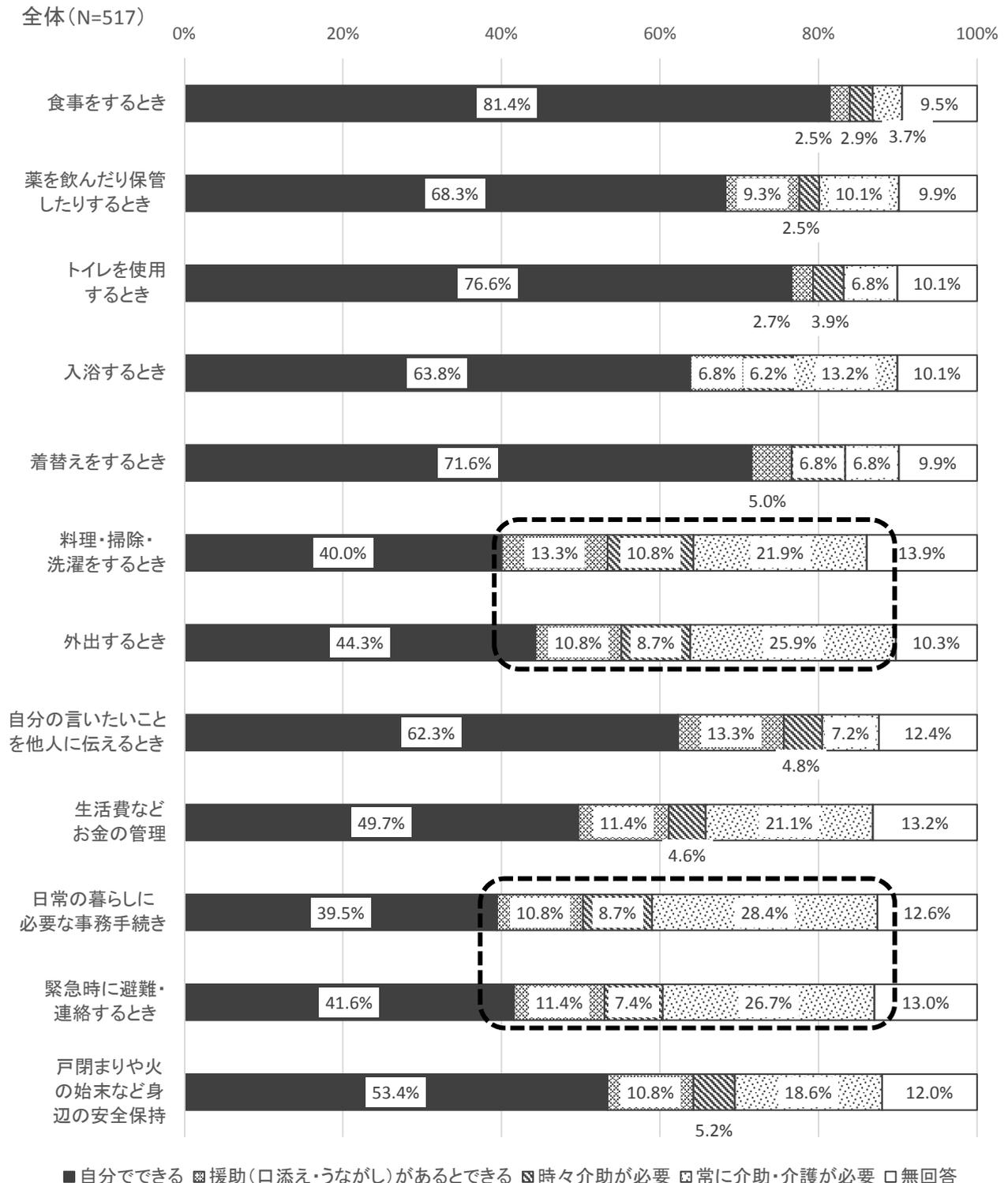
主に援助・介助・介護をしている方について、全体では「父母、祖父母、きょうだい」が31.9%と最も多く、「配偶者」が22.1%、「子ども」が14.7%と続いています。

障害種別では、身体障害のある方は「配偶者」が32.4%、知的障害のある方と精神障害のある方は「父母、祖父母、きょうだい」がそれぞれ87.7%、56.3%と最も多くなっています。

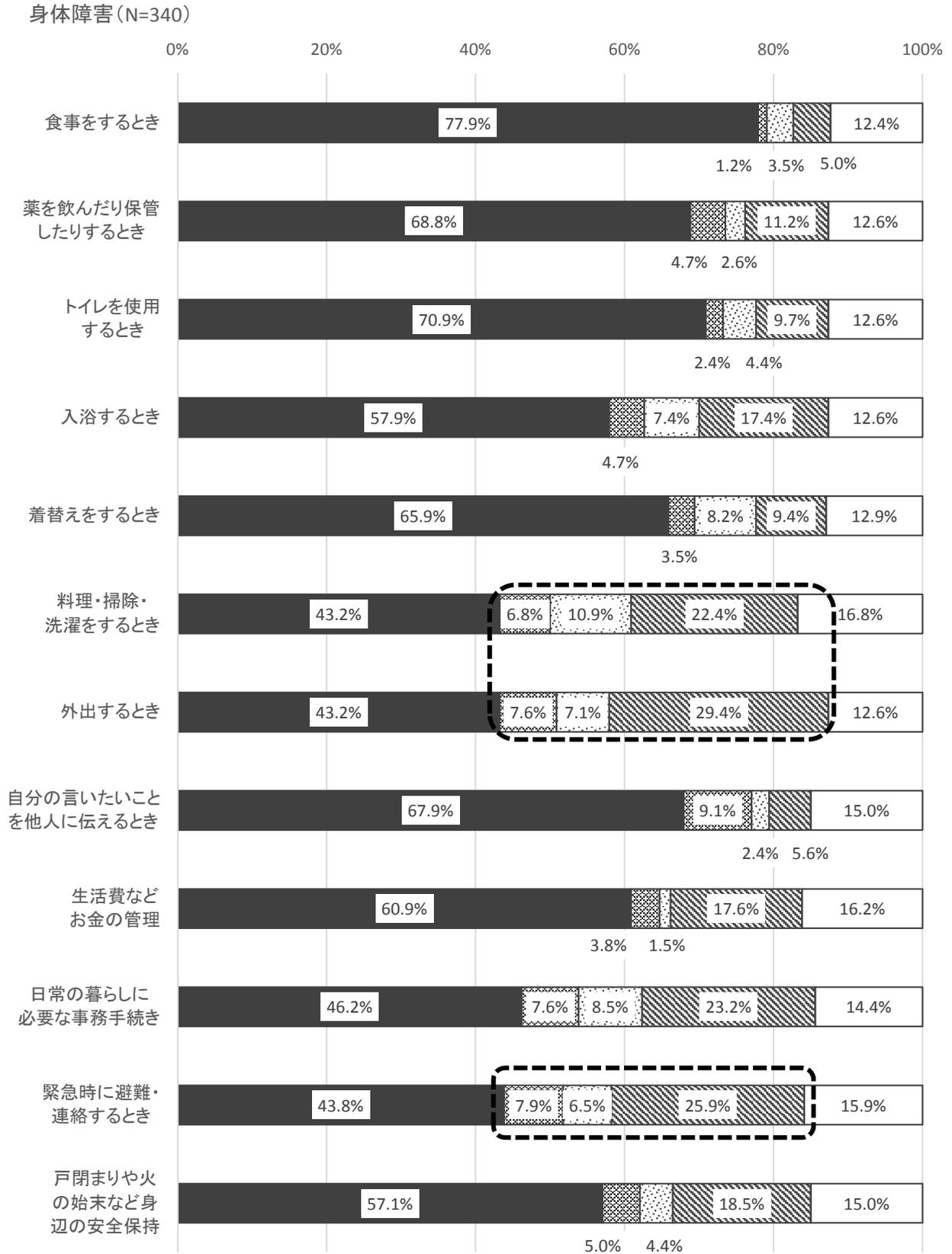


②障害の状況について

下記のことをするとき、支援（援助・介助・介護）が必要かについて、『支援が必要』（「援助がある」とできる）「時々介助が必要」「常に介助・介護が必要」を合せた割合）は、「日常の暮らしに必要な事務手続き」、「料理・掃除・洗濯をするとき」、「緊急時に避難・連絡するとき」、「外出するとき」で高くなっています。



身体障害のある方は、「外出するとき」、「緊急時に避難・連絡するとき」、「料理・掃除・洗濯をするとき」で『支援が必要』の割合が高くなっています。

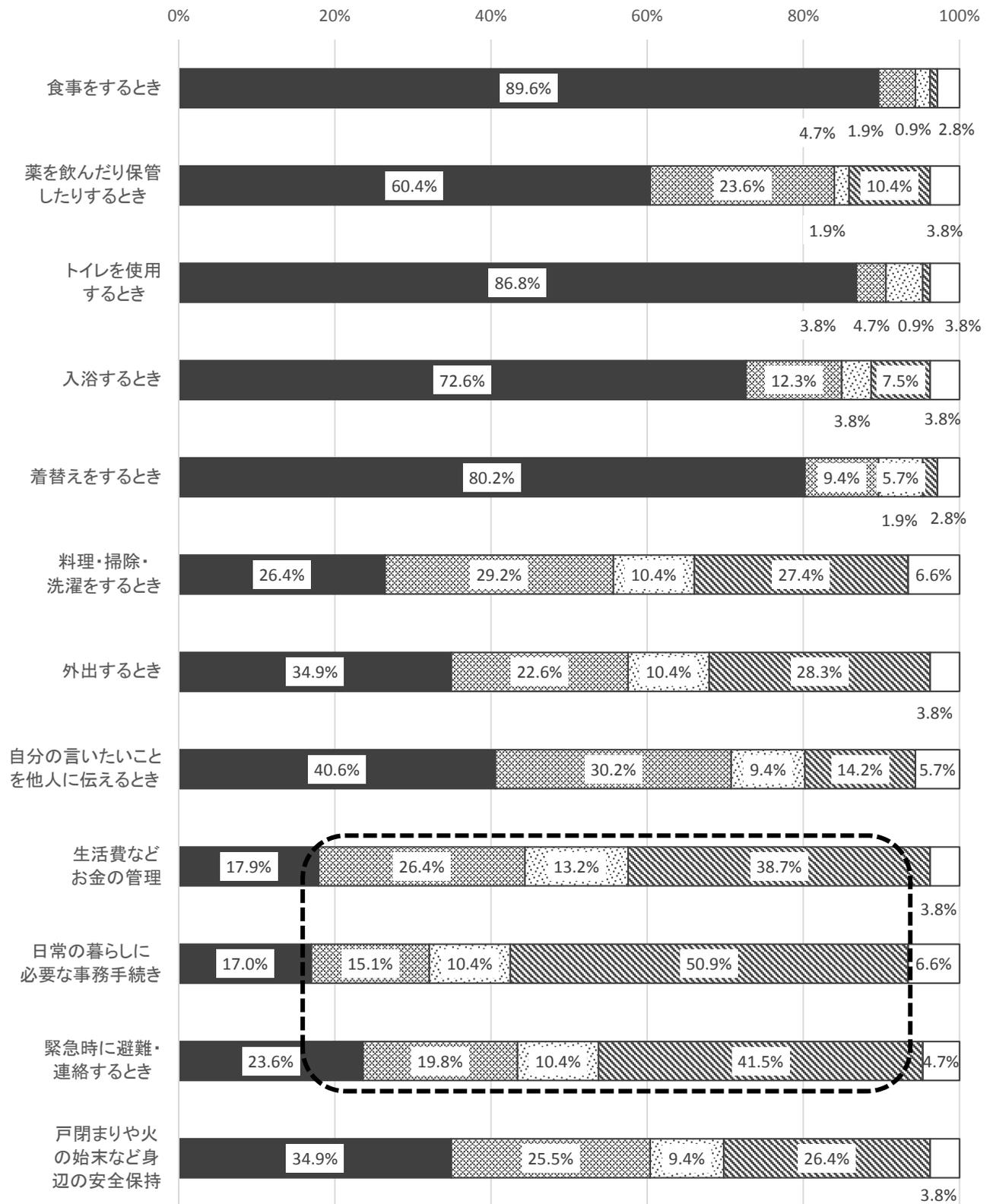


■ 自分でできる ■ 援助(口添え・うながし)があるとできる ■ 時々介助が必要 ■ 常に介助・介護が必要 □ 無回答

～ 第2章 障害のある人の現状 ～

知的障害のある方は、「生活費などお金の管理」、「日常の暮らしに必要な事務手続き」、「緊急時に避難・連絡するとき」で『支援が必要』の割合が高くなっています。

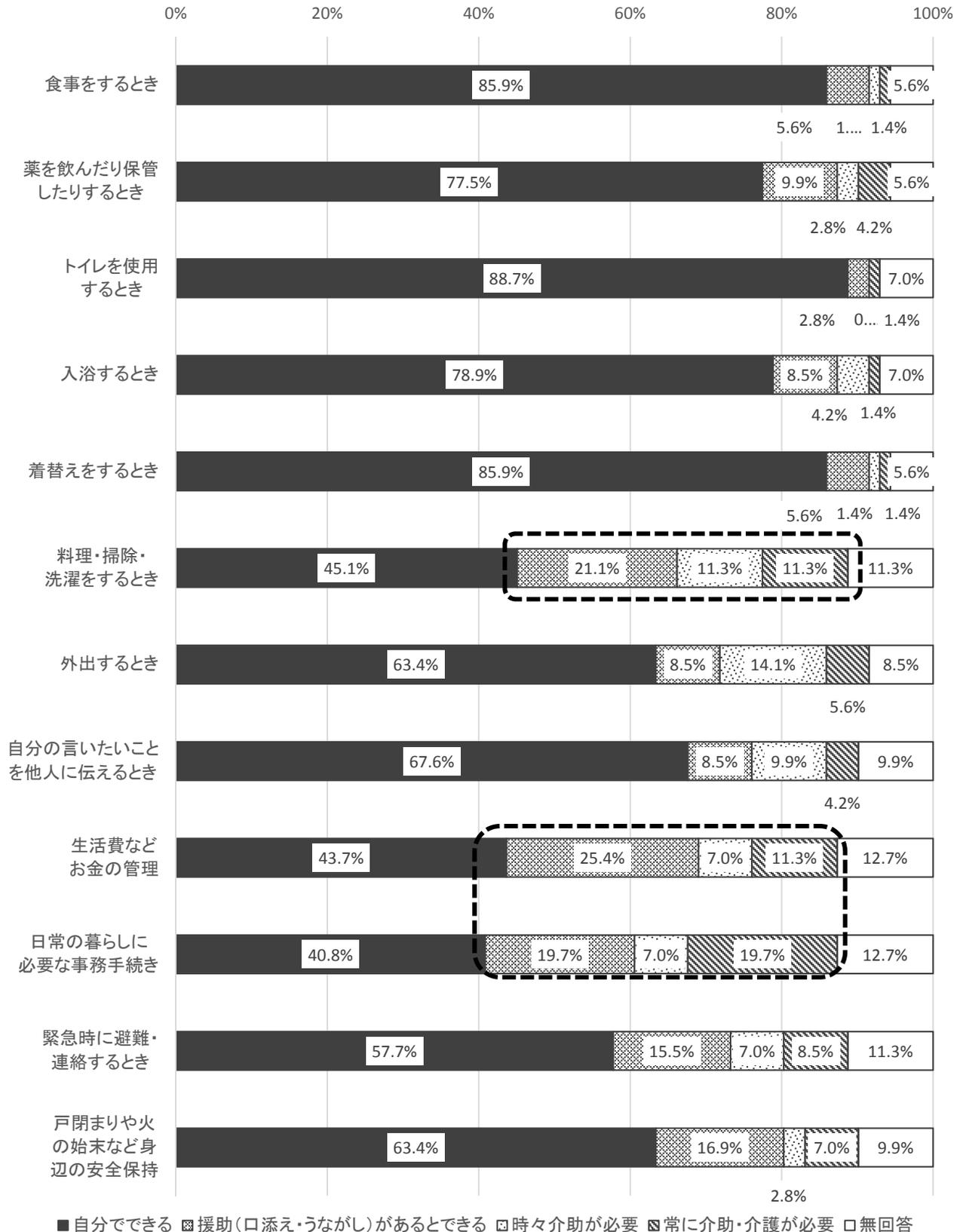
知的障害 (N=106)



■自分でできる □援助(口添え・うながし)があるとできる ▨時々介助が必要 ▩常に介助・介護が必要 □無回答

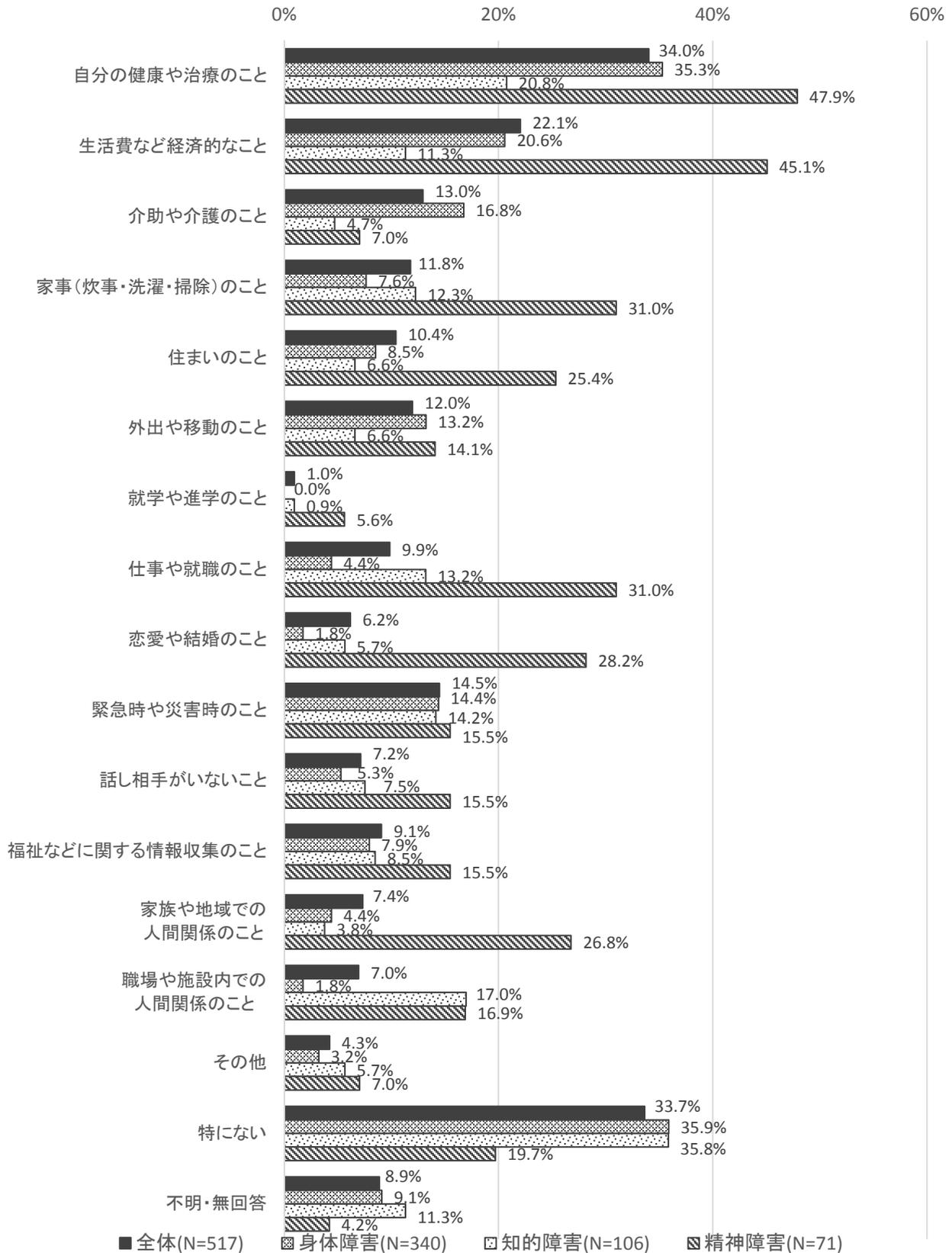
精神障害のある方は、「日常の暮らしに必要な事務手続き」、「料理・掃除・洗濯をするとき」、「生活費などお金の管理」で『支援が必要』の割合が高くなっています。

精神障害 (N=71)

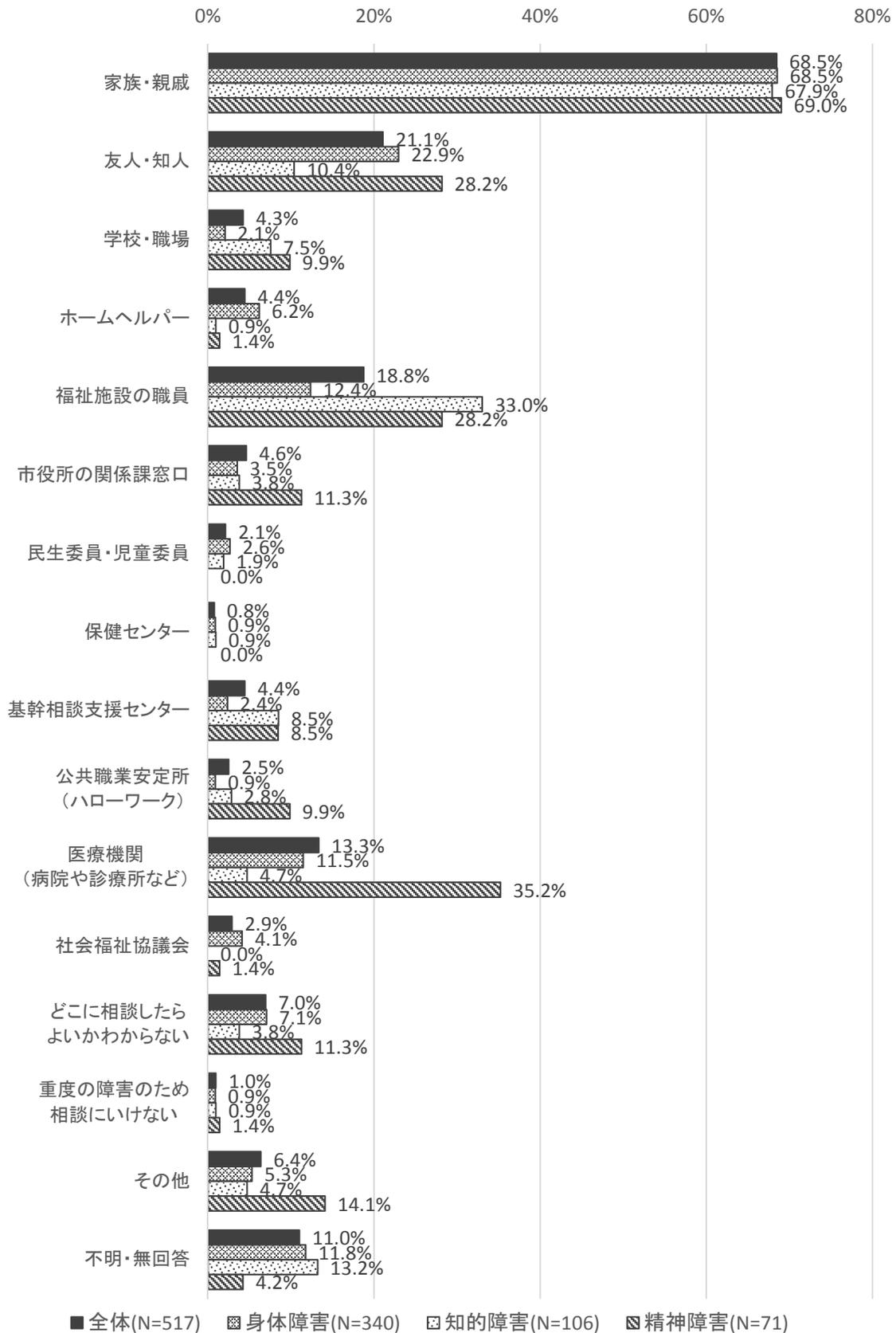


③相談・情報について

現在悩んでいることや相談したいことについて、「自分の健康や治療のこと」が34.0%と最も多く、「生活費など経済的なこと」が22.1%、「緊急時や災害時のこと」が14.5%と続いています。障害種別でも、「自分の健康や治療のこと」の割合が最も高くなっています。

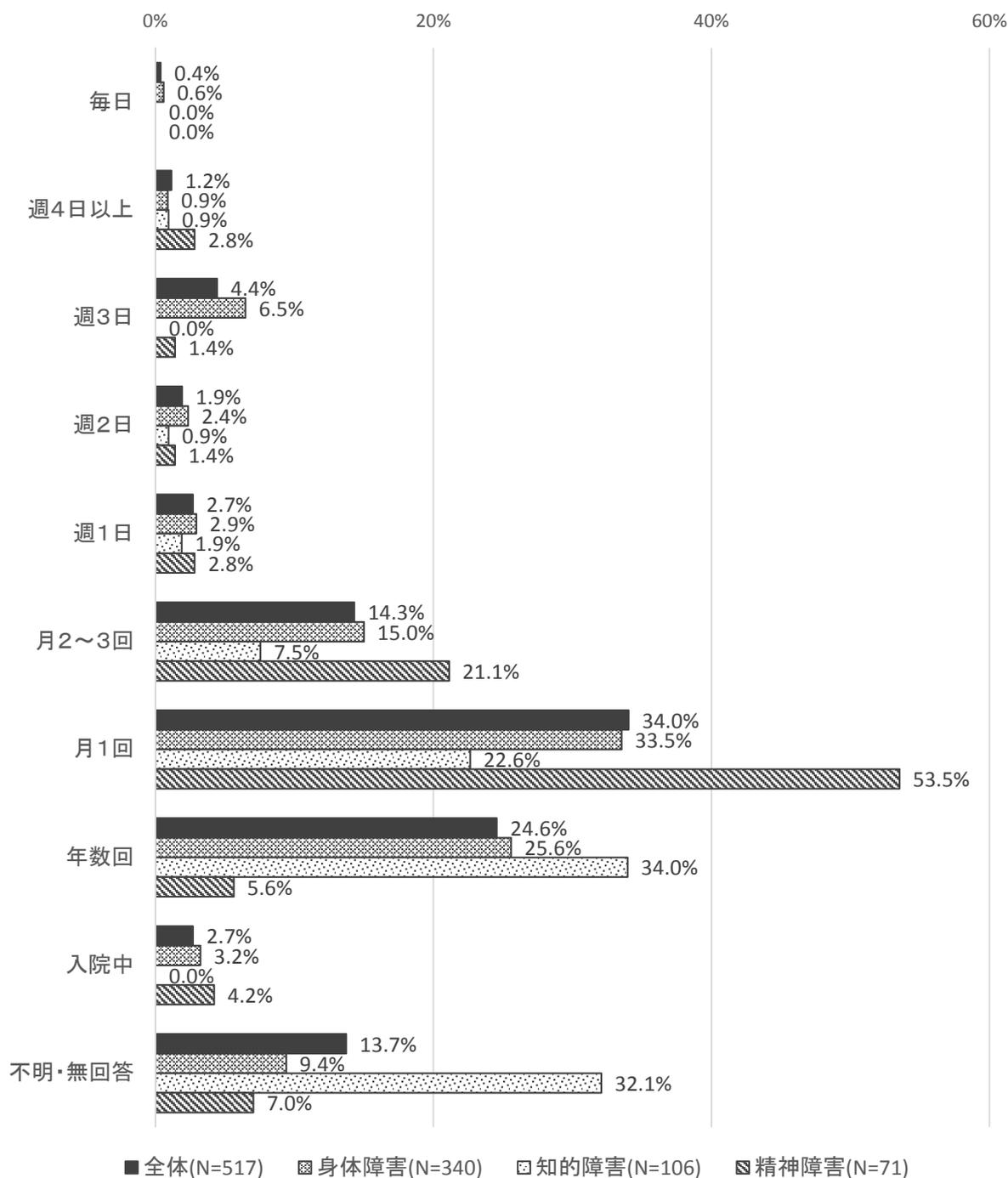


悩んでいることを相談する相手について、「家族・親戚」が68.5%と最も多く、「友人・知人」が21.1%、「福祉施設の職員」が18.8%と続いています。障害種別でも、「家族・親戚」の割合が最も高くなっています。



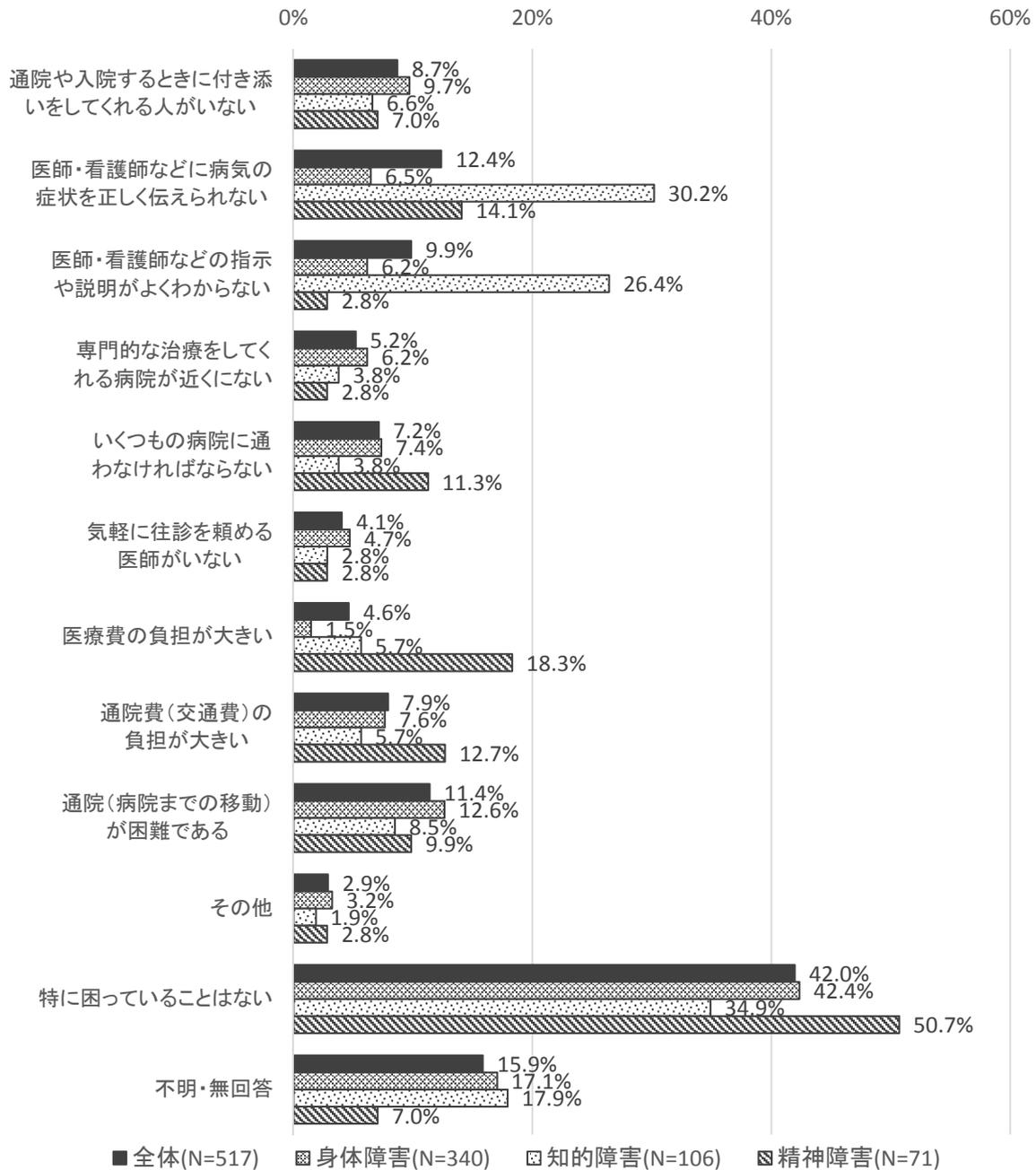
④保健・医療について

全体では「月1回」が34.0%と最も多く、次いで「年数回」が24.6%となっています。
 障害種別では、身体障害のある方と精神障害のある方は「月1回」がそれぞれ33.5%、53.5%、
 知的障害のある方は「年数回」が30.4%と最も多くなっています。



医療を受ける上で困っていることについて、全体では「医師・看護師などに病気の症状を正しく伝えられない」が12.4%と、次いで「通院（病院までの移動）が困難である」が11.4%となっています。

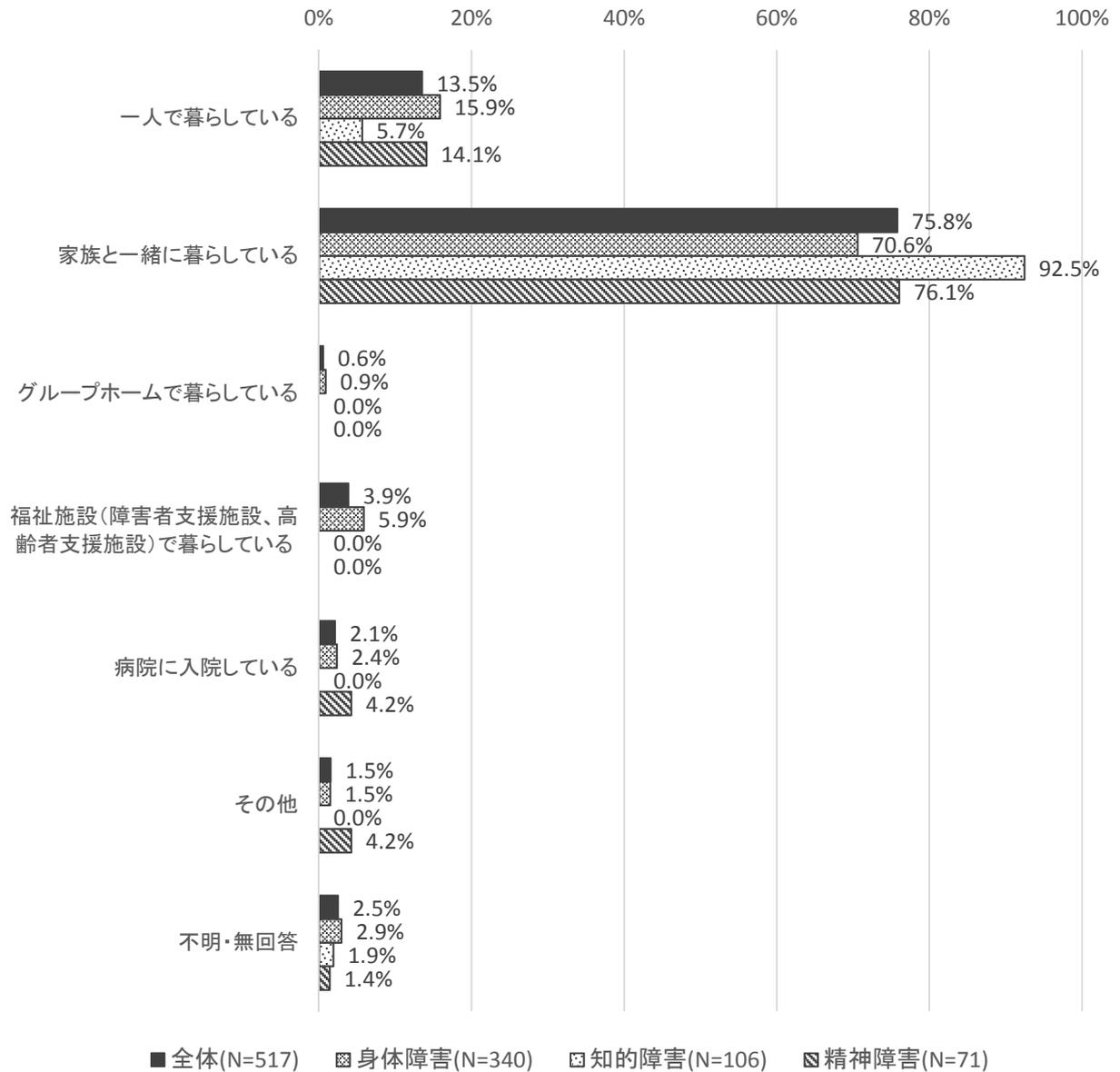
障害種別では、身体障害のある方は「通院（病院までの移動）が困難である」が12.6%、知的障害のある方は「医師・看護師などに病気の症状を正しく伝えられない」が30.2%、精神障害のある方は「医療費の負担が大きい」が18.3%と最も多くなっています。



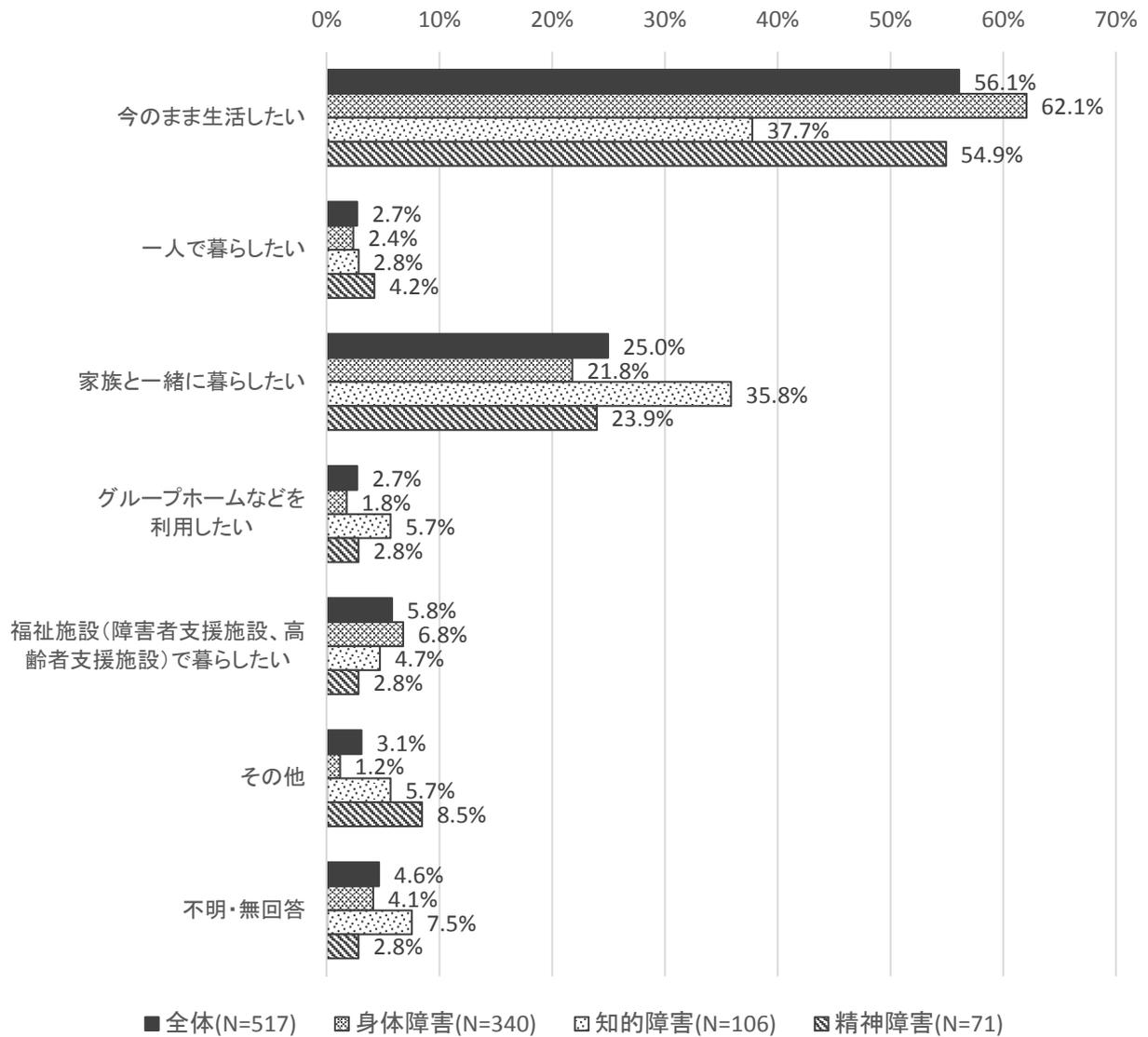
⑤住まいや暮らしについて

現在どのように暮らしているかについて、全体では「家族と一緒に暮らしている」が75.8%と最も多く、「一人で暮らしている」が13.5%と続いています。

障害種別でも、「家族と一緒に暮らしている」の割合が最も高くなっています。



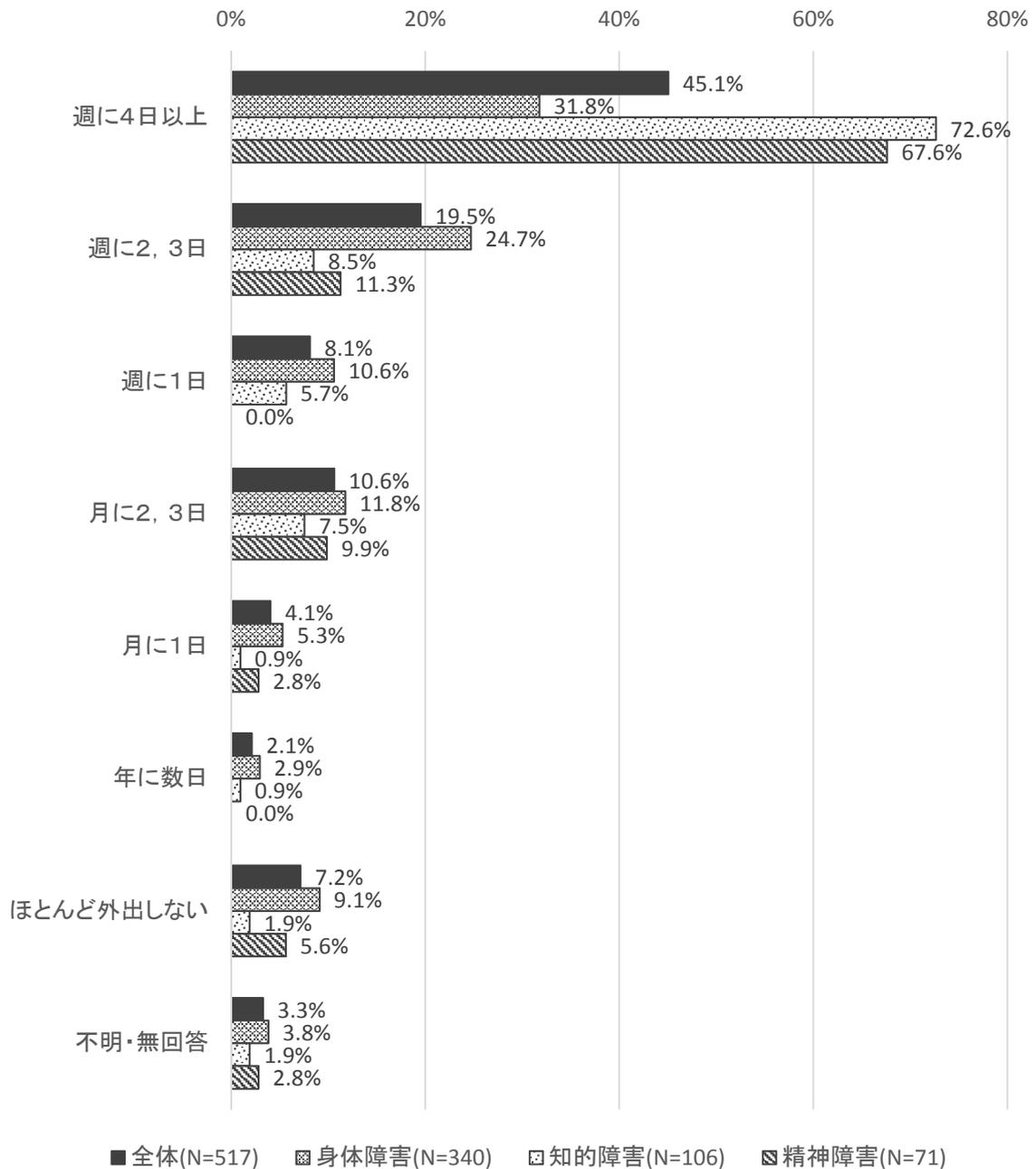
今後どのように暮らしたいかについて、全体では「今のまま生活したい」が56.1%と最も多く、次いで「家族と一緒に暮らしたい」が25.0%となっています。
障害種別でも、「今のまま生活したい」が最も高くなっています。



⑥外出や生活環境について

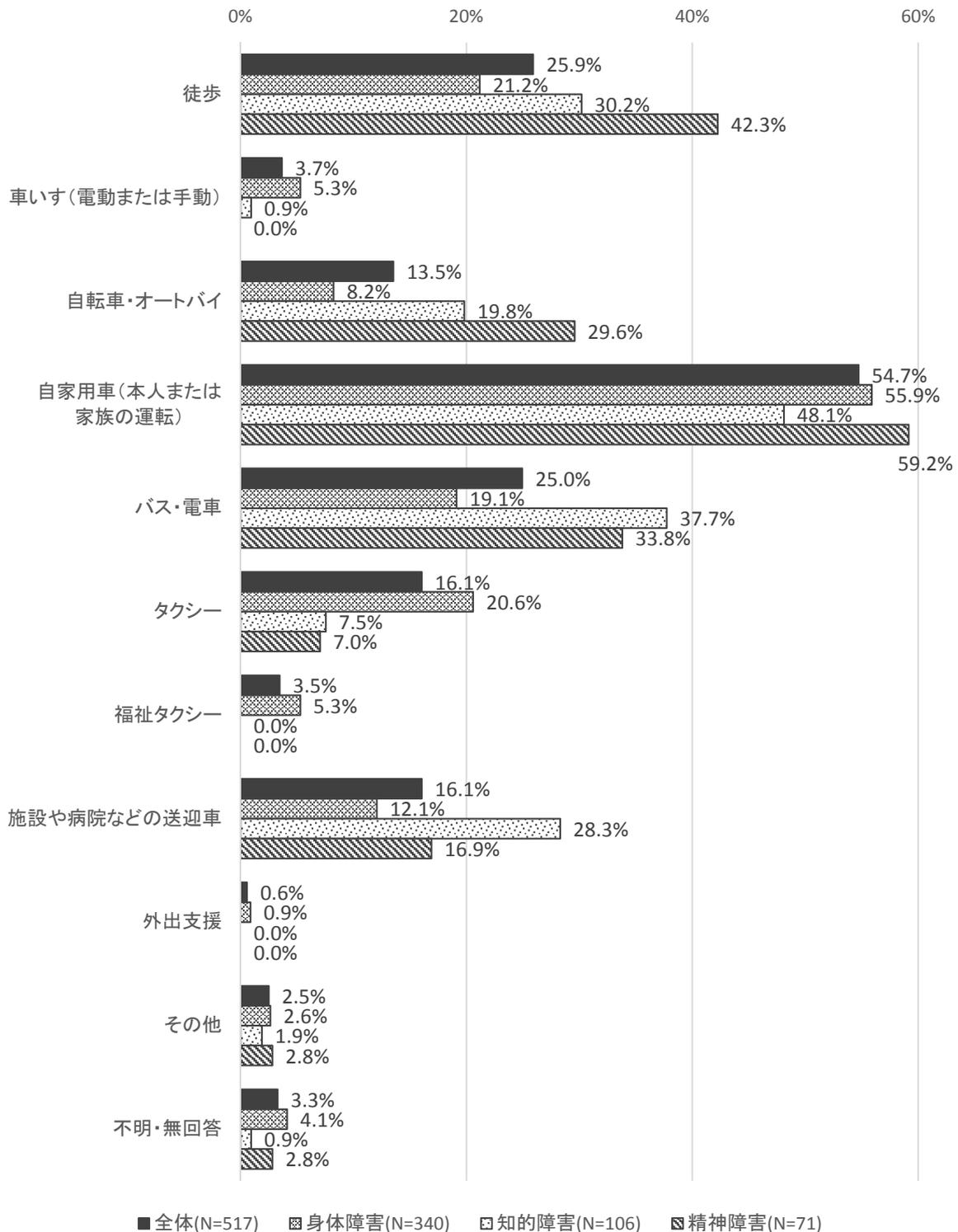
どのくらいの頻度で外出しているかについては「週に4日以上」が最も多く、次いで「週に2～3日」が19.5%、「月に2・3日」が10.6%と続いています。

障害種別でも、いずれも「週4日以上」最も高くなっています。



外出するときの主な交通手段については「自家用車（本人または家族の運転）」が54.7%と最も高く、「徒歩」25.9%、「バス・電車」が25.0%と続いています。

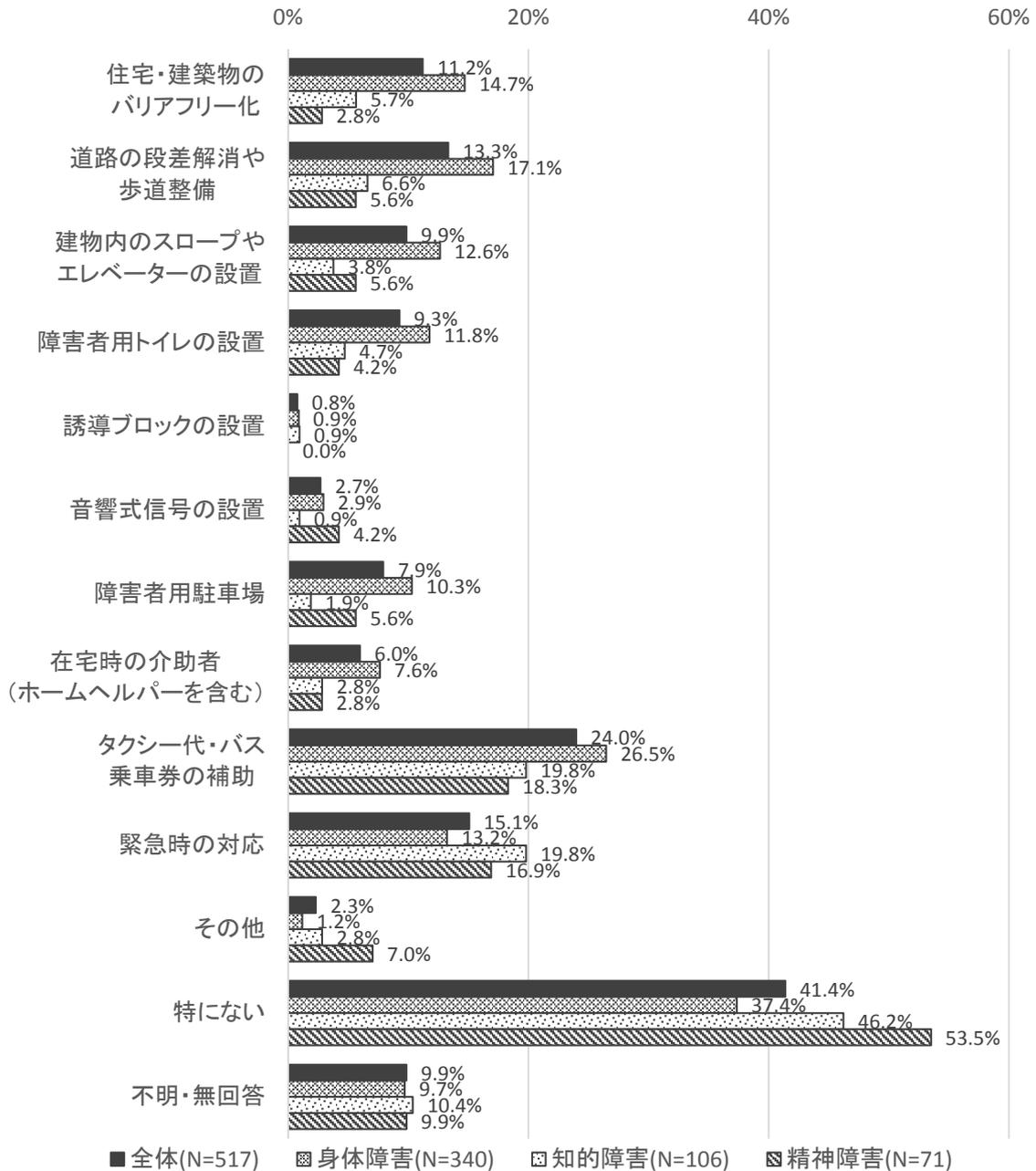
障害種別でも、いずれも「自家用車（本人または家族の運転）」が最も高くなっています。



～ 第2章 障害のある人の現状 ～

外出するために必要な整備・援助については、「特にない」が41.1%と最も高くなっています。次いで、「タクシー代・バス乗車券の補助」が24.0%となっています。

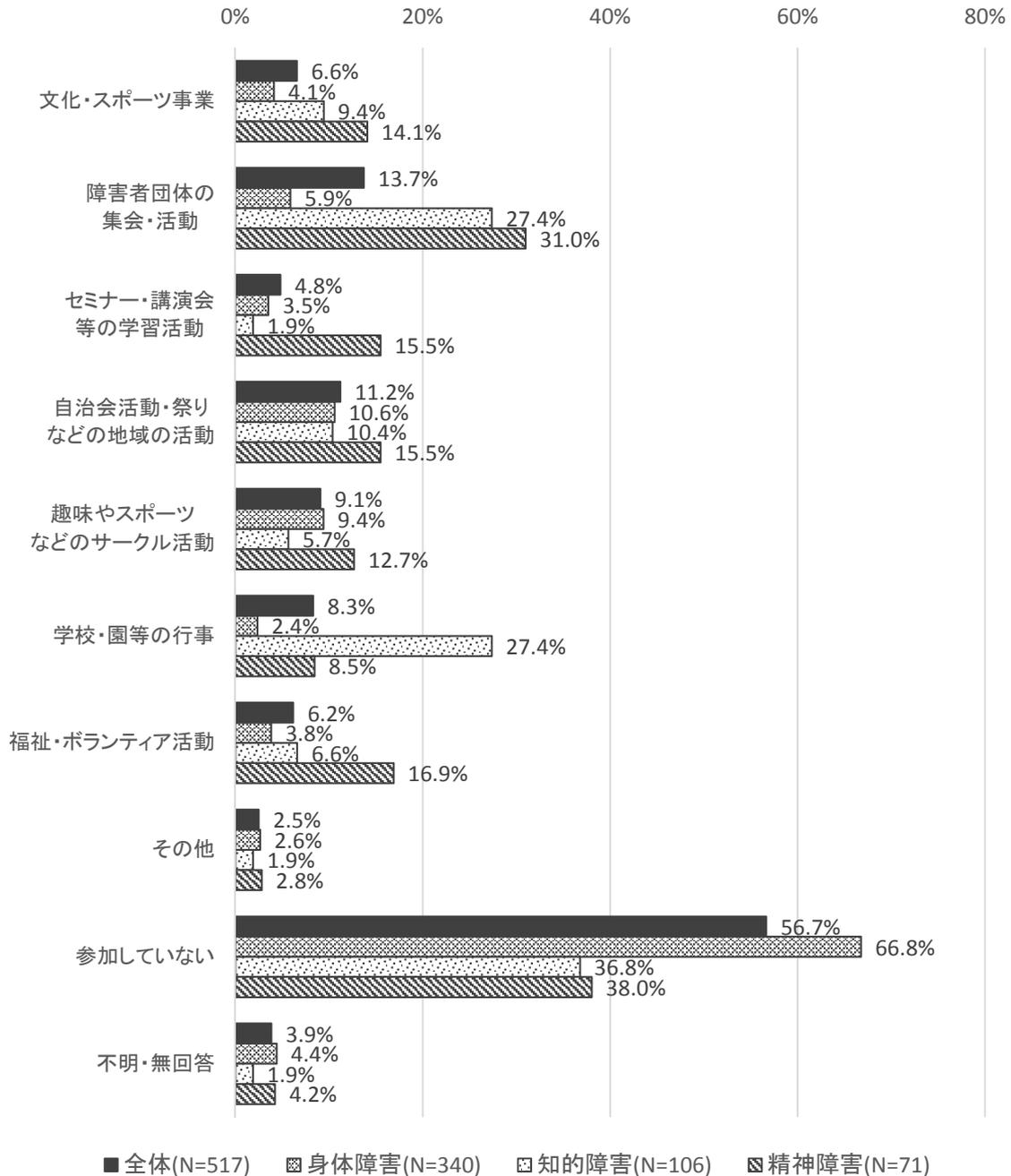
整備・援助を必要とする方たちの障害種別では、「タクシー代・バス乗車券の補助」が最も高く、身体障害のある方は26.5%、知的障害のある方は19.8%で「緊急時の対応」が同率となっており精神障害のある方は18.3%となっています。



⑦社会参加・地域参加について

最近1年間の地域の行事や活動への参加については、「参加していない」が56.7%、何らかの行事・活動に参加された方が39.4%（「参加していない」「不明・無回答」を除く。）となっています。行事・活動の内容としては、「障害者団体の集会・活動」が13.7%と最も高く、次いで「自治会活動・祭りなどの地域の活動」が11.2%となっています。

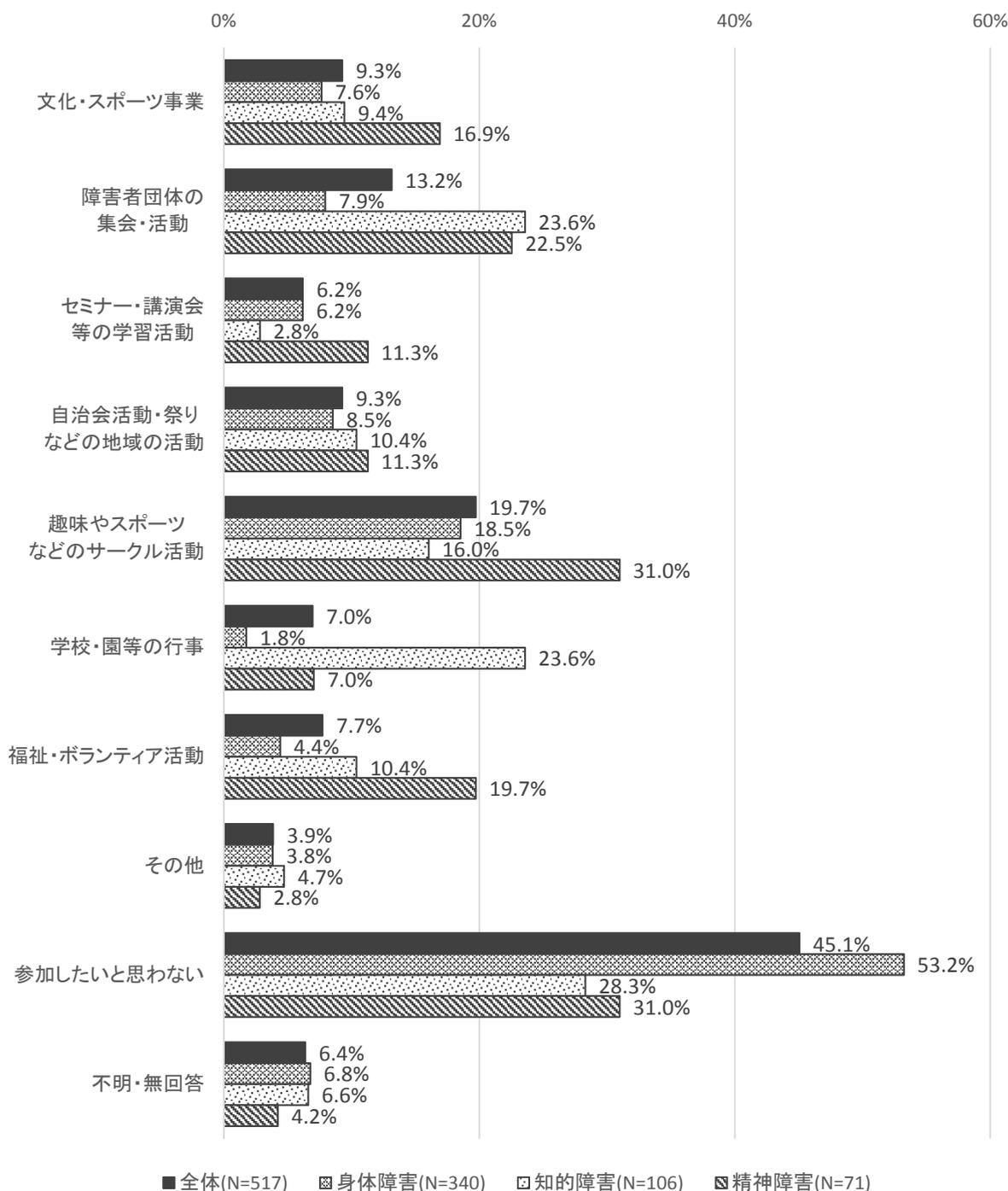
参加した行事・活動を障害種別で見ると身体障害のある方は「自治会活動・祭りなどの地域の活動」が、知的障害・精神障害のある方は「障害者団体の集会・活動」がそれぞれ最も高くなっています。



～ 第2章 障害のある人の現状 ～

今後どのような行事や活動に参加したいかについては、何らかの行事・活動に参加したいと考える方が48.5%（「参加したいと思わない」「不明・無回答」を除く。）、「参加したいと思わない」が45.1%となっています。行事・活動の内容としては、「趣味やスポーツなどのサークル活動」が最も高く、次いで「障害者団体の集会・活動」が13.2%となっています。

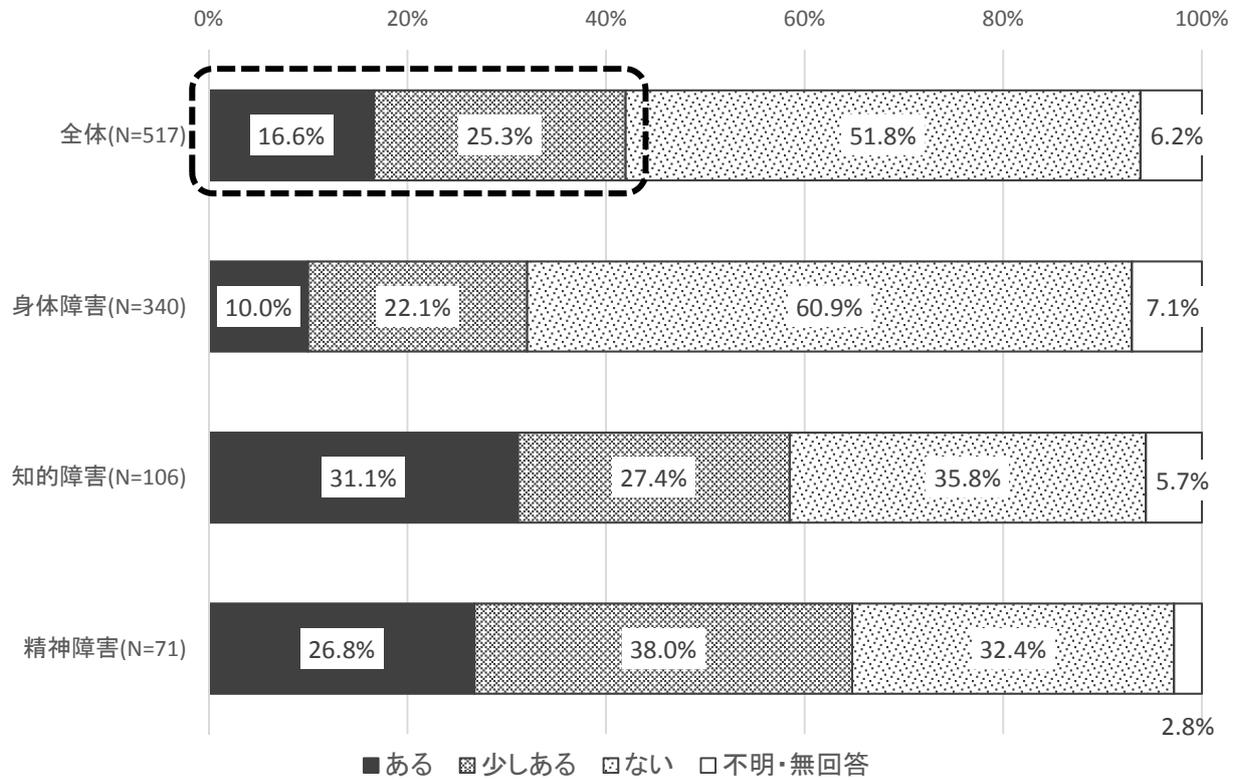
参加したい行事・活動を障害種別で見ると、身体障害・精神障害のある方は「趣味やスポーツなどのサークル活動」が知的障害のある方は「障害者団体の集会・活動」が最も高くなっており



⑧権利擁護について

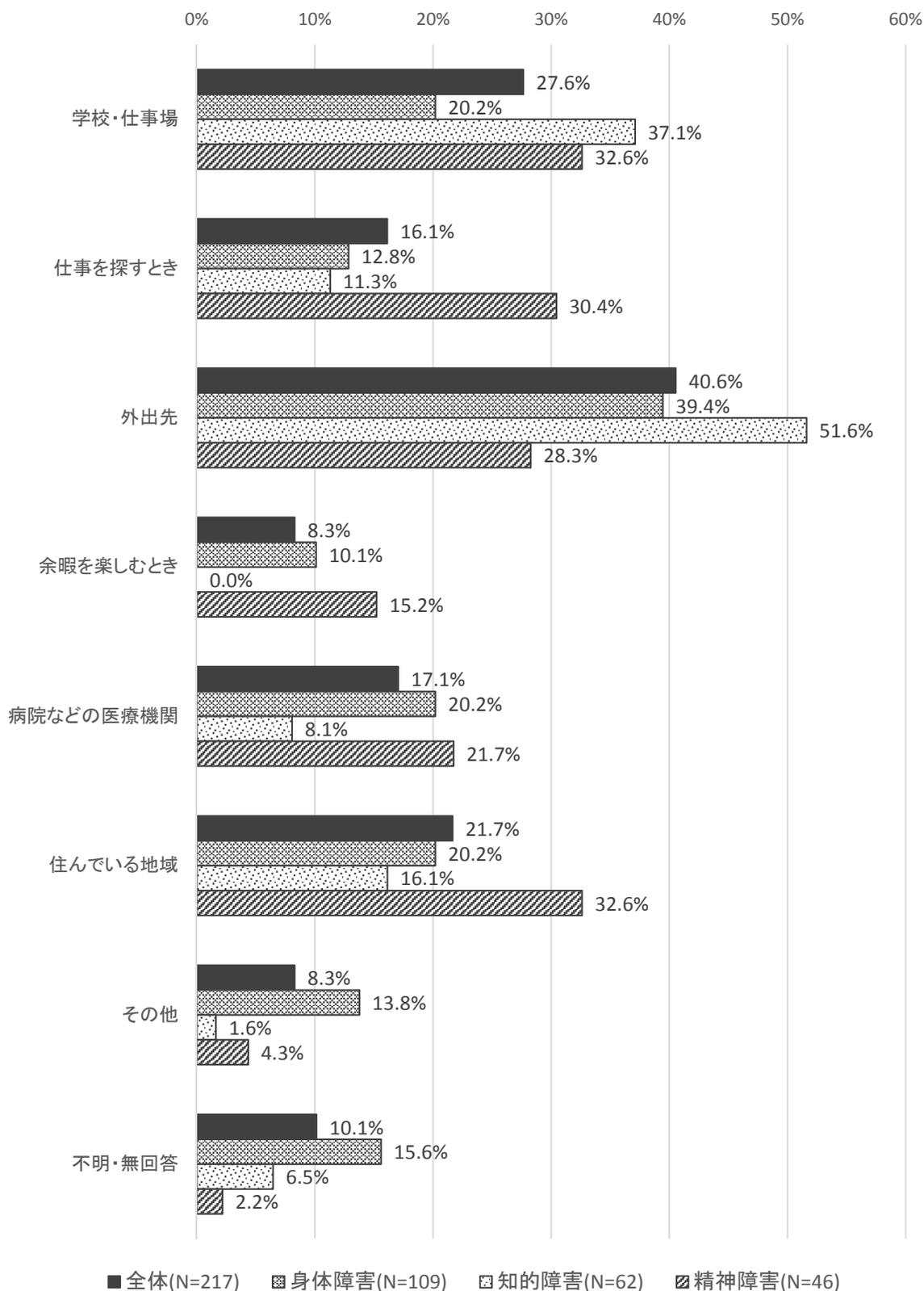
障害があることで差別や嫌な思いをすることがあるかについては、「ない」が51.8%、「少しある」が25.3%、「ある」が16.6%となっています。

障害種別では、知的・精神障がいのある方が身体障害のある方に比べ嫌な思いをしたことがある方の割合が高くなっています。



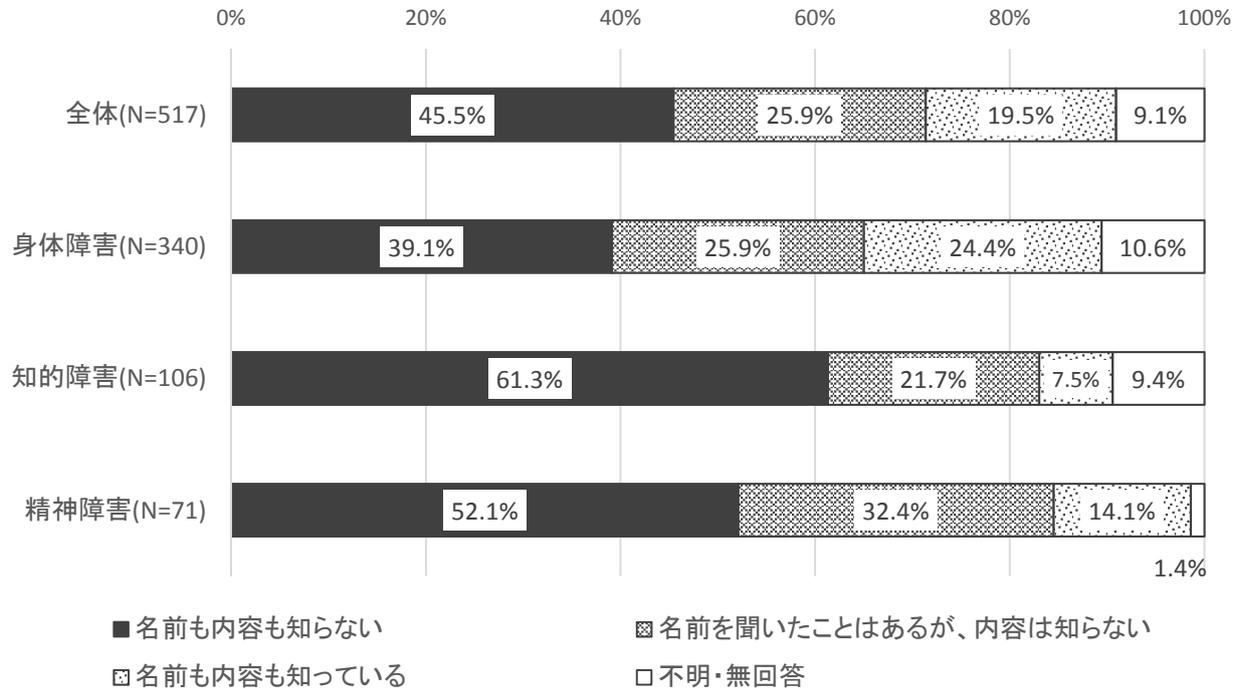
～ 第2章 障害のある人の現状 ～

障害があることで差別や嫌な思いをしたことがある方でどのような場所で差別や嫌な思いをしたことがあるかについては、「外出先」が40.6%と最も高く、「学校・仕事場」27.6%、「住んでいる地域」が21.7%と続いています。



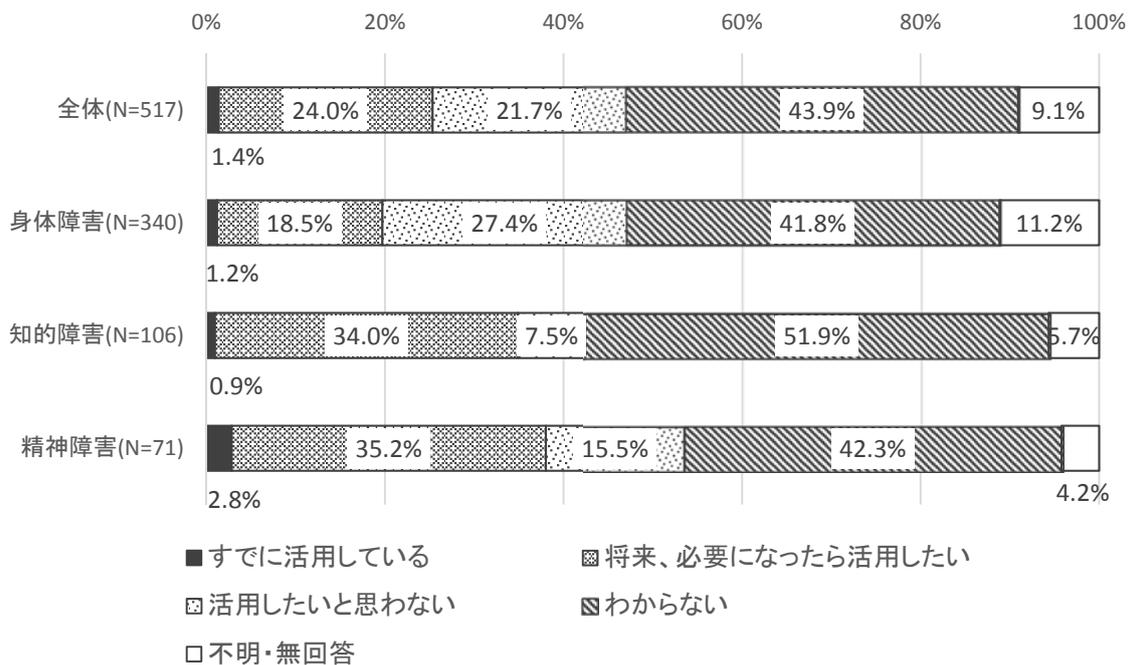
成年後見制度について、「名前も内容も知らない」が 45.5%「名前は聞いた事が有るが、内容は知らない」が 25.9%「名前も内容も知っている」が 19.5%となっています。

障害種別では、知的障害のある方は「名前も内容も知らない」は他の障害と比較しても若干高くなっています。



成年後見制度を活用したいかについて、「分からない」が最も高く 43.9%で「将来、必要になったら活用したい」が 24.5%「活用したいと思わない」が 21.7%「すでに活用している」が 1.4%となっています。

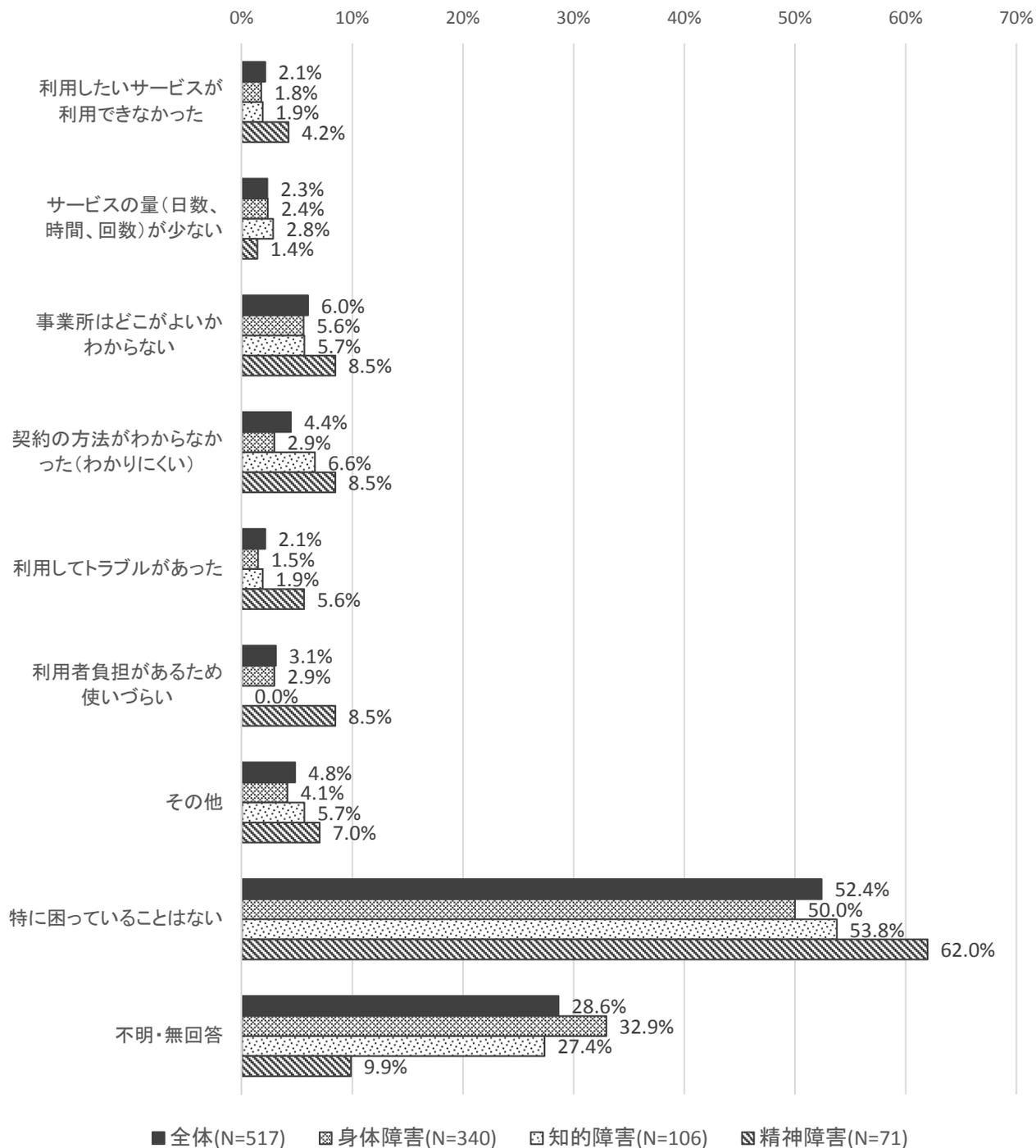
障害種別では、いずれも「分からない」が高くなっています。知的障害のある方、精神障害のある方は「将来、必要になったら活用したい」が他の障害のある方と比較して、高くなっています。



⑨障害福祉サービスなどについて

障害福祉サービス等を利用して不便なことや困っていることについて、「特に困っていることはない」が52.4%と最も高く、次いで、「事業所はどこがよいかわからない」6.0%となっています。

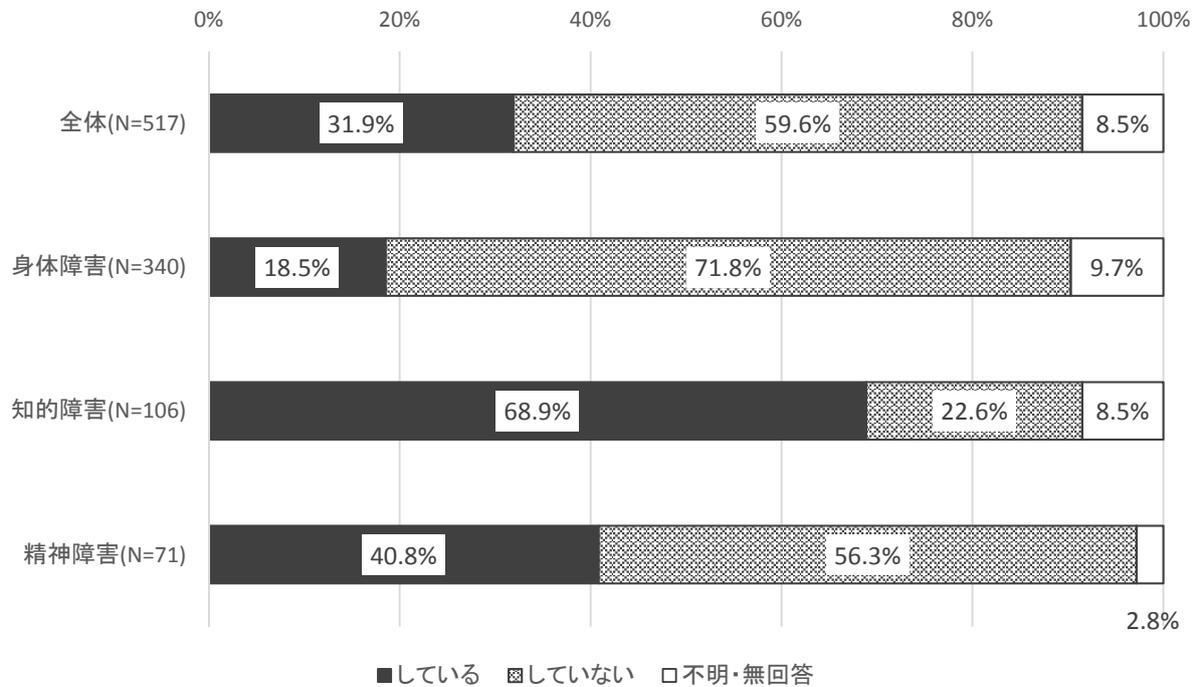
障害種別では、それぞれ「特に困っていることはない」が高くなっています。



⑩雇用・就労について

現在、仕事をしているかについて、全体で「仕事をしていない」が59.6%と最も高く、次いで、「仕事をしている」が31.9%となっています。

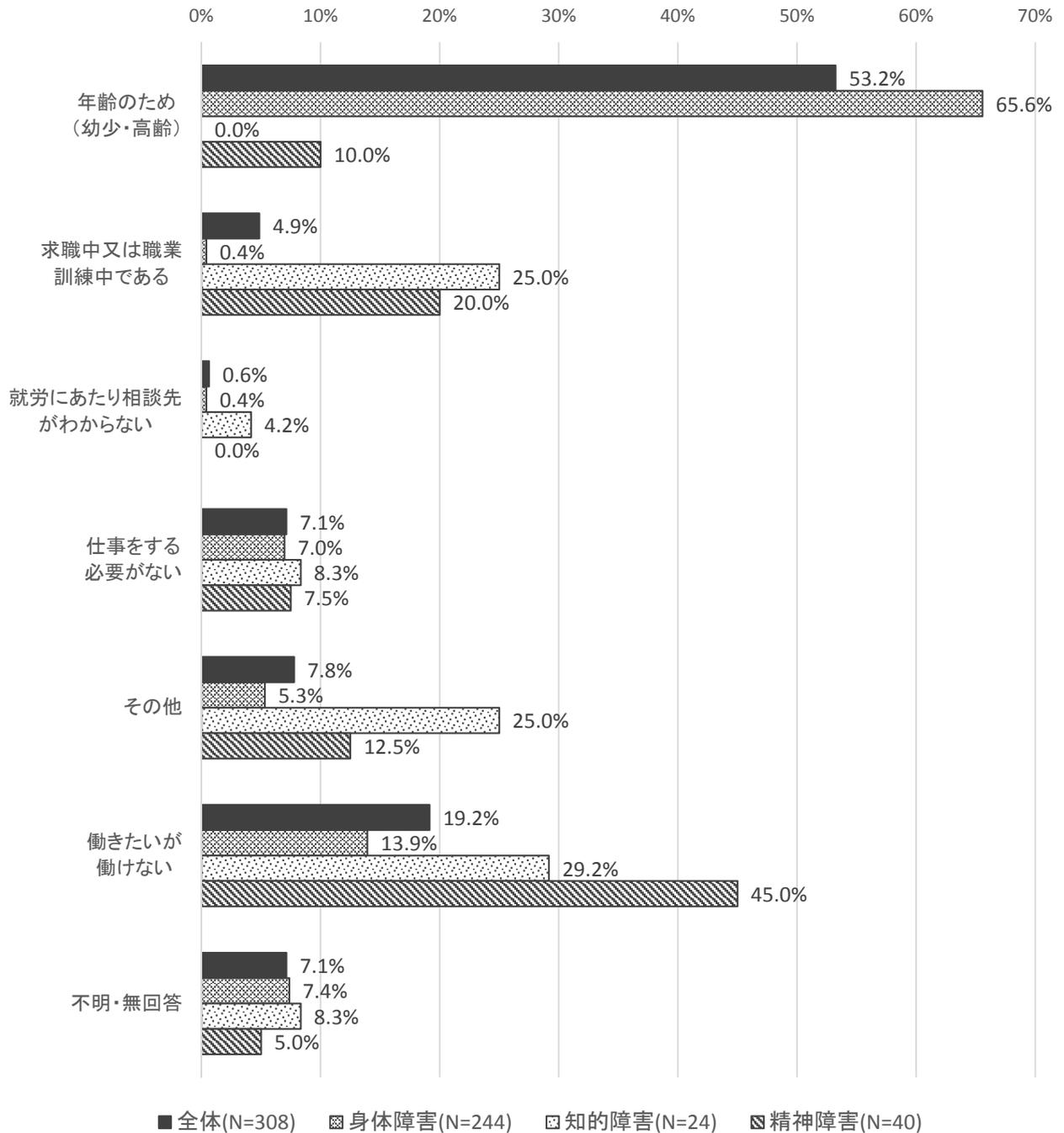
障害種別では、知的障害のある方、精神障害のある方が「仕事をしている」が他の障害のある方と比較して高くなっています。



～ 第2章 障害のある人の現状 ～

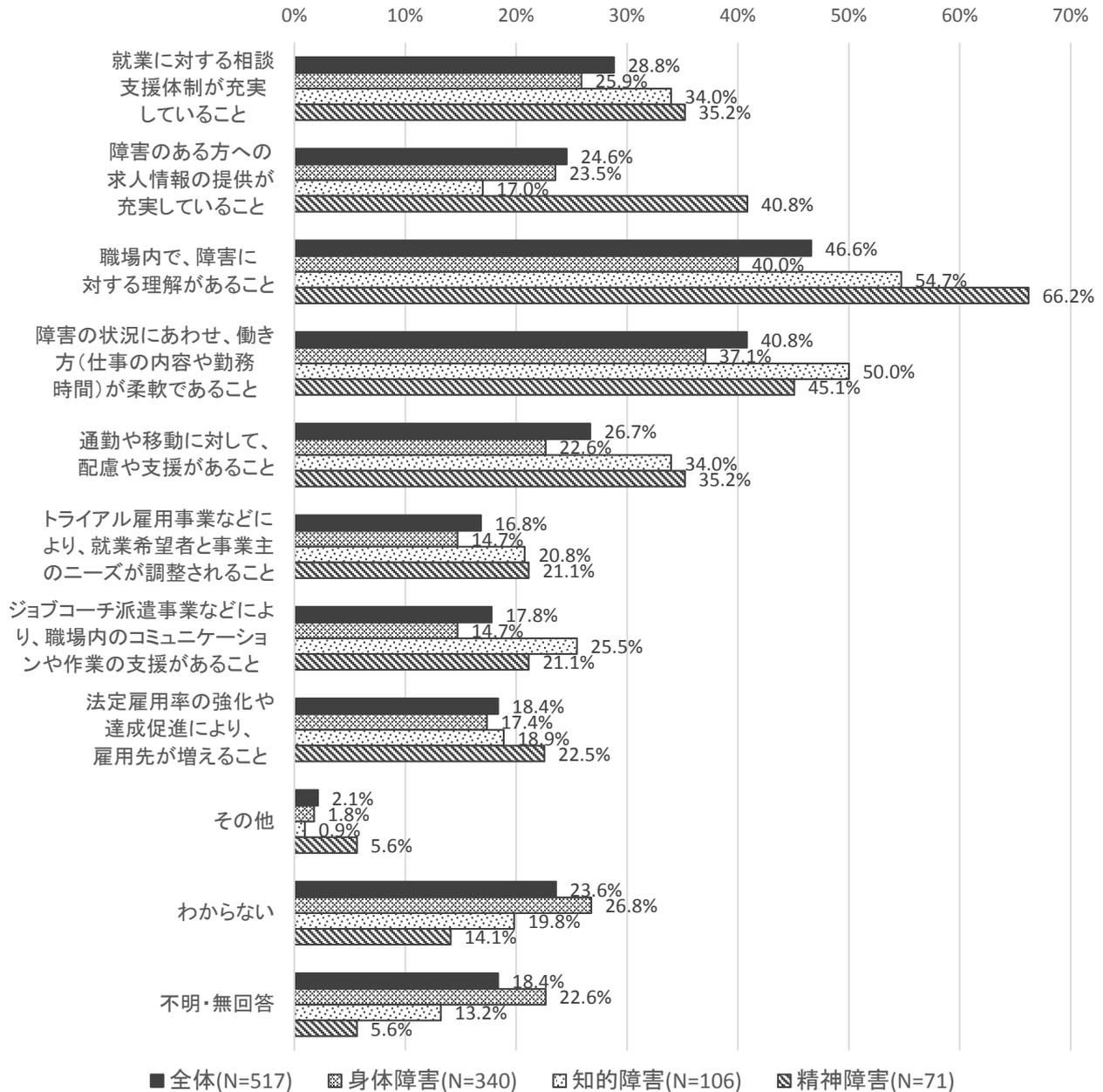
働いていない主な理由については、全体で「年齢のため」が53.2%と最も高く、次いで「働きたいが働けない」19.2%となっています。

障害種別では精神障害のある方、知的障害のある方は、「働きたいが働けない」が45.0%、29.2%、身体障害のある方は「年齢のため」が65.6%と最も高くなっています。



障害のある方が会社などで就労するにあたり、どのような配慮が必要かについて、全体では「職場内で障害に対する理解があること」が46.6%と最も高く、次いで「障害の状況にあわせ、働き方（仕事の内容や勤務時間）が柔軟であること」が40.8%となっています。

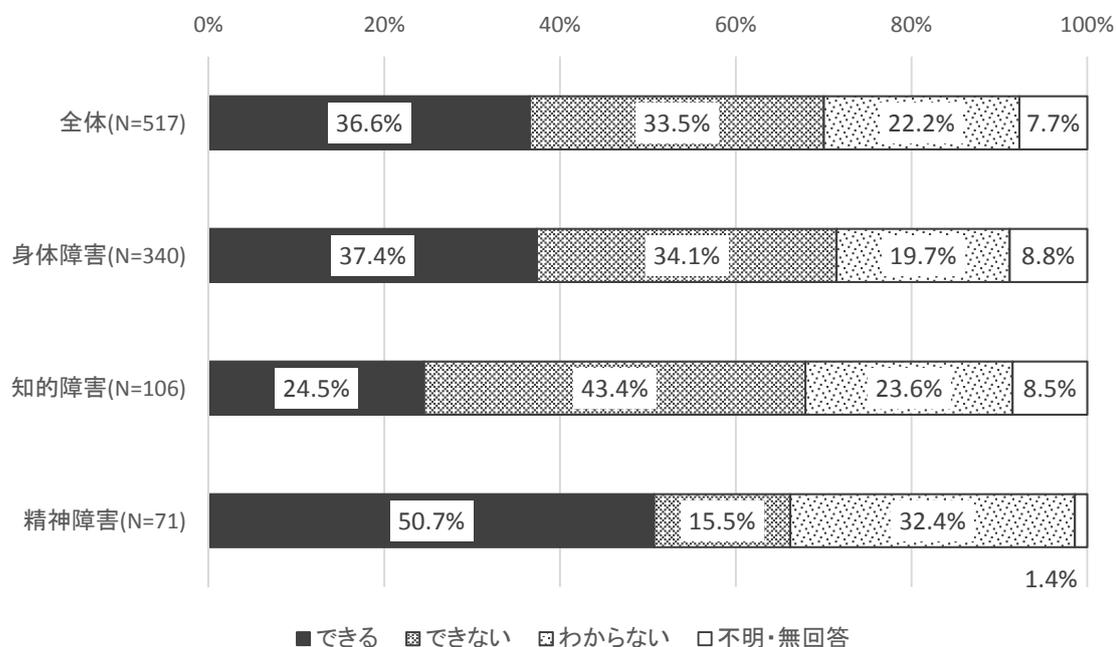
障害種別では、いずれも「職場内で障害に対する理解があること」「障害の状況にあわせ、働き方（仕事の内容や勤務時間）が柔軟であること」の割合が高くなっています。



⑪地域防災について

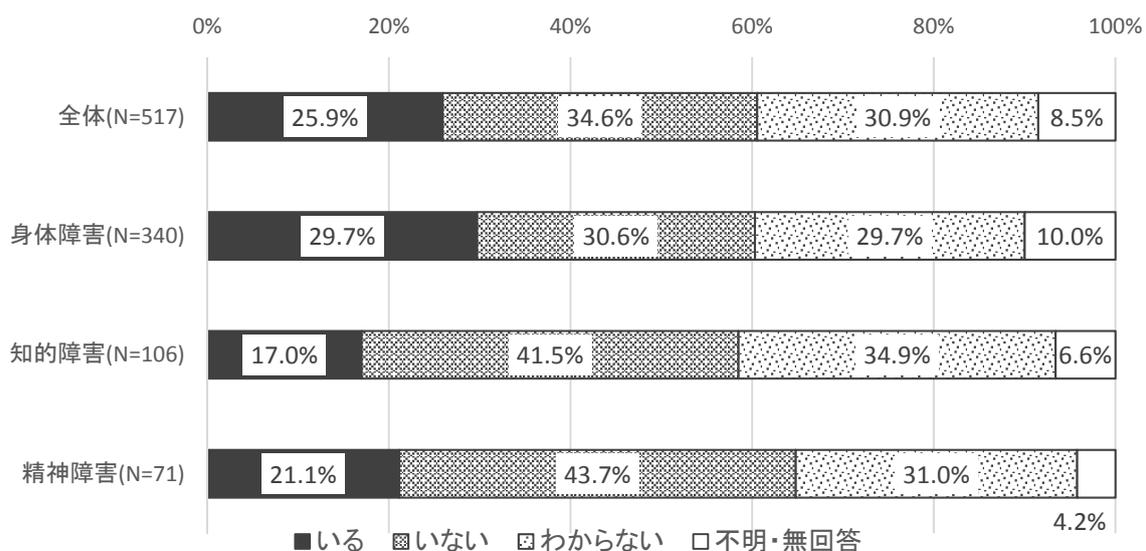
火事や地震等の災害時に一人で避難できるかについて、全体では「できる」36.6%「できない」33.5%となっています。

障害種別では、身体障害のある方、精神障害のある方が「できる」、知的障害のある方が「できない」の割合が高くなっています。



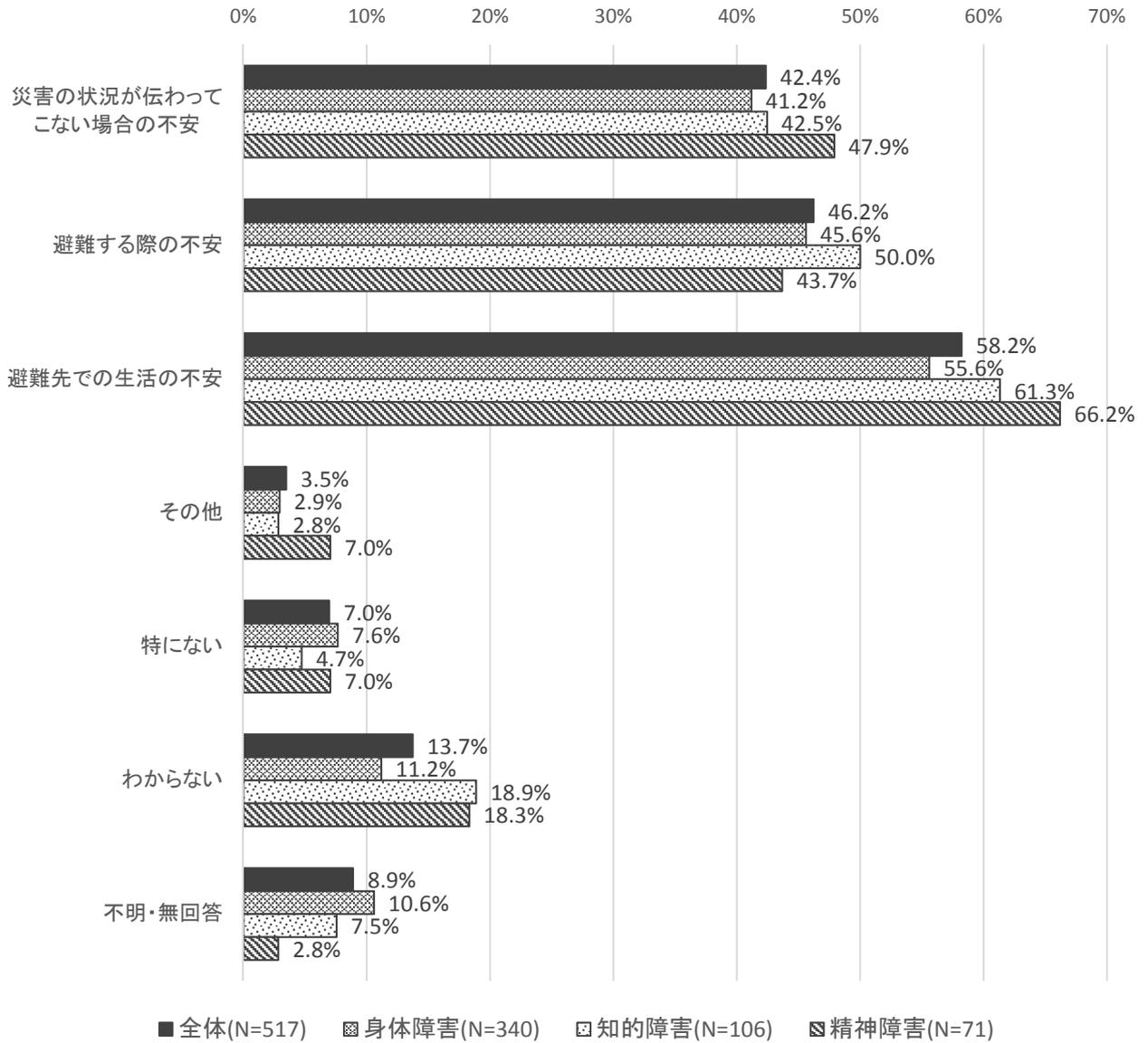
災害時に家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますかについて、全体では「いない」が34.6%、次いで「わからない」30.9%、「いる」が25.9%となっています。

障害者別では、いずれも「いない」「わからない」の割合が高くなっています。



万一、災害が起こった際の不安について、全体では「避難先での生活の不安」が58.2%と最も高く、次いで「避難する際の不安」が46.2%となっています。

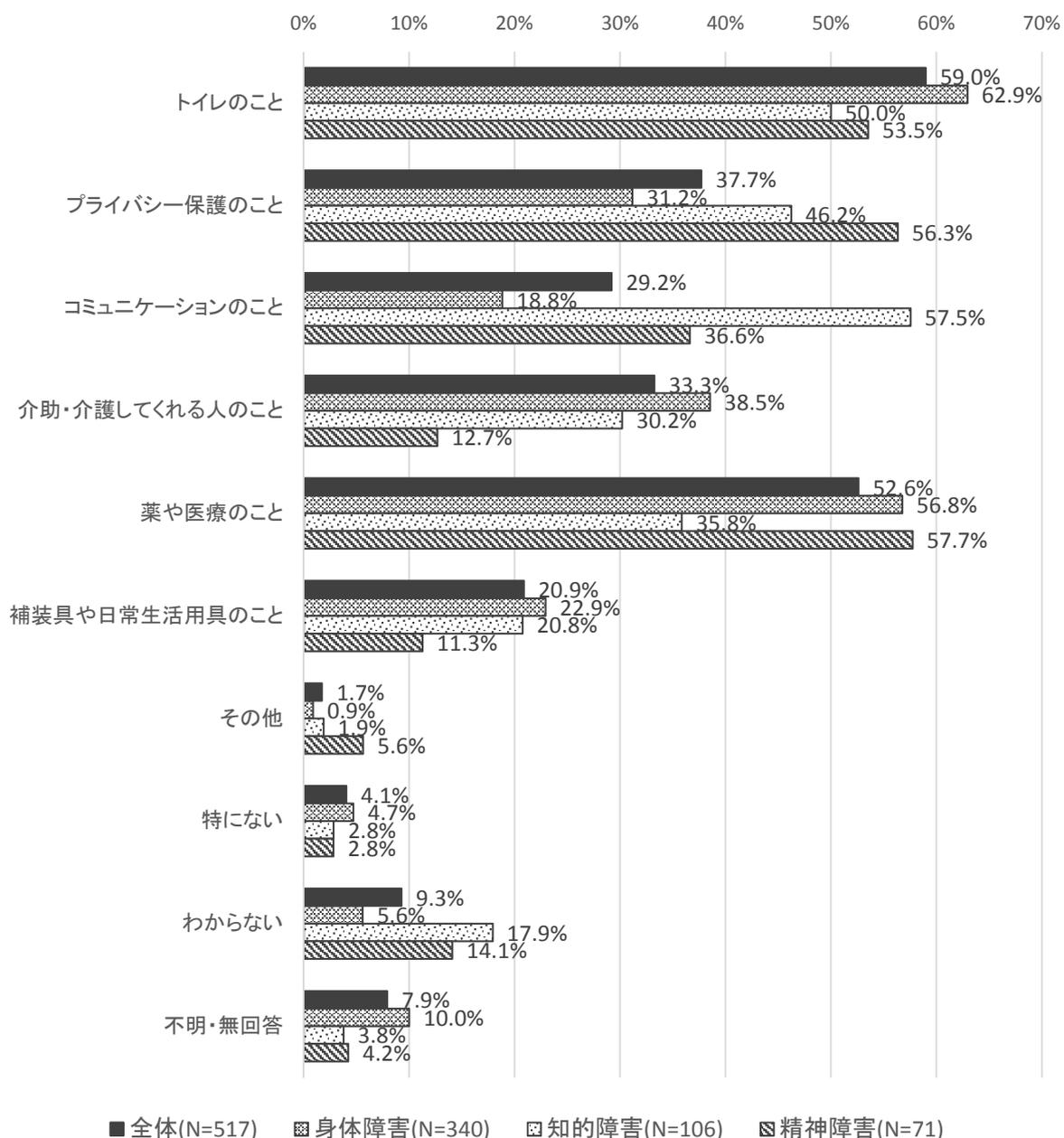
障害種別では、いずれも「避難先での生活の不安」の割合が最も高くなっています。



～ 第2章 障害のある人の現状 ～

災害時に、避難場所などで具体的に困ると思われることについて、全体では「トイレのこと」が59.0%と最も高く、次いで「薬や医療のこと」が52.6%となっています。

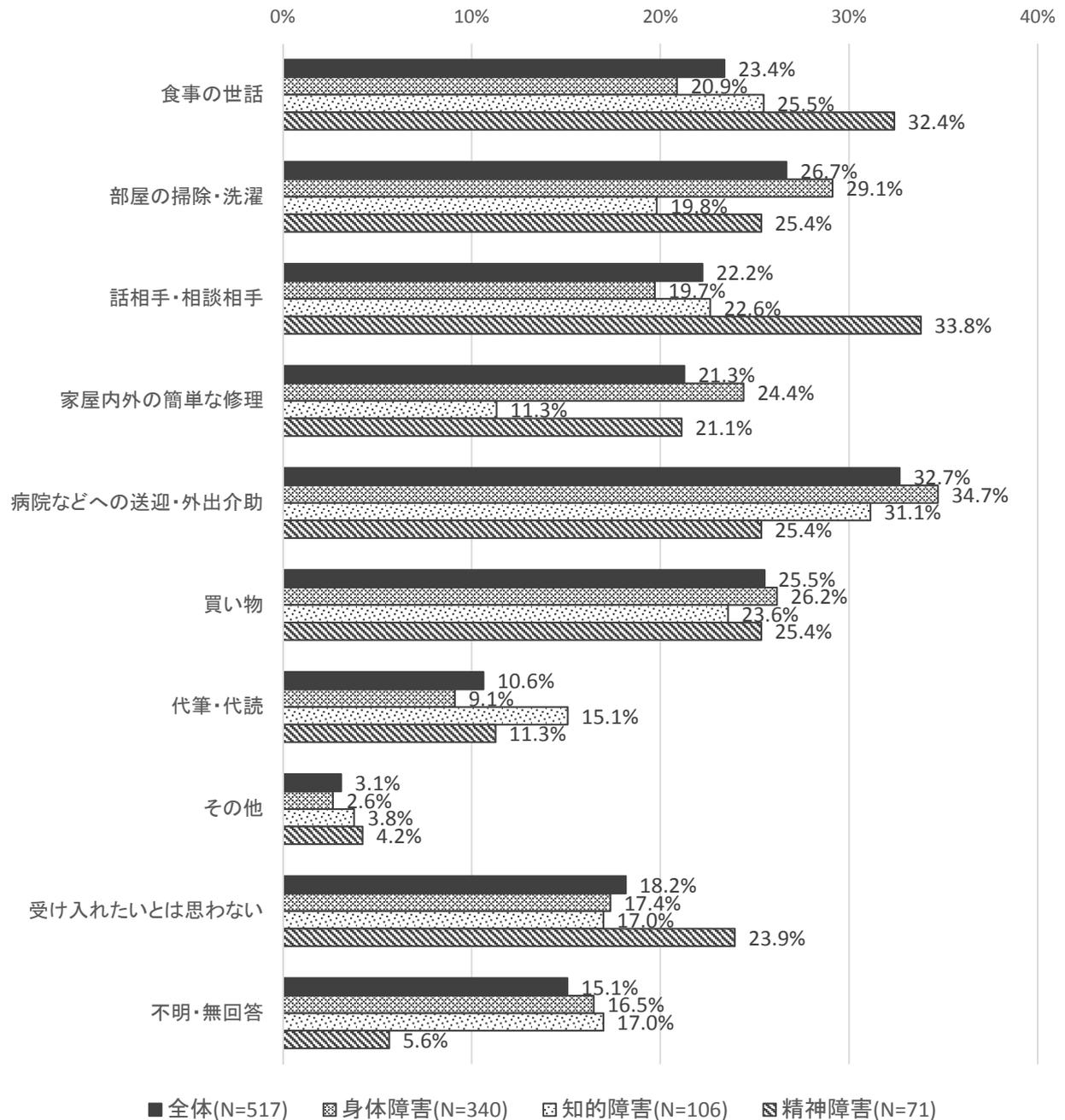
障害種別では、精神障害のある方は「薬や医療のこと」が57.7%、次いで「トイレのこと」が53.5%、身体障害のある方は「トイレのこと」が62.9%、次いで「薬や医療のこと」が56.8%、知的障害のある方は「コミュニケーションのこと」が57.5%、次いで「トイレのこと」が50.0%となっています。



⑫地域福祉や障害への理解について

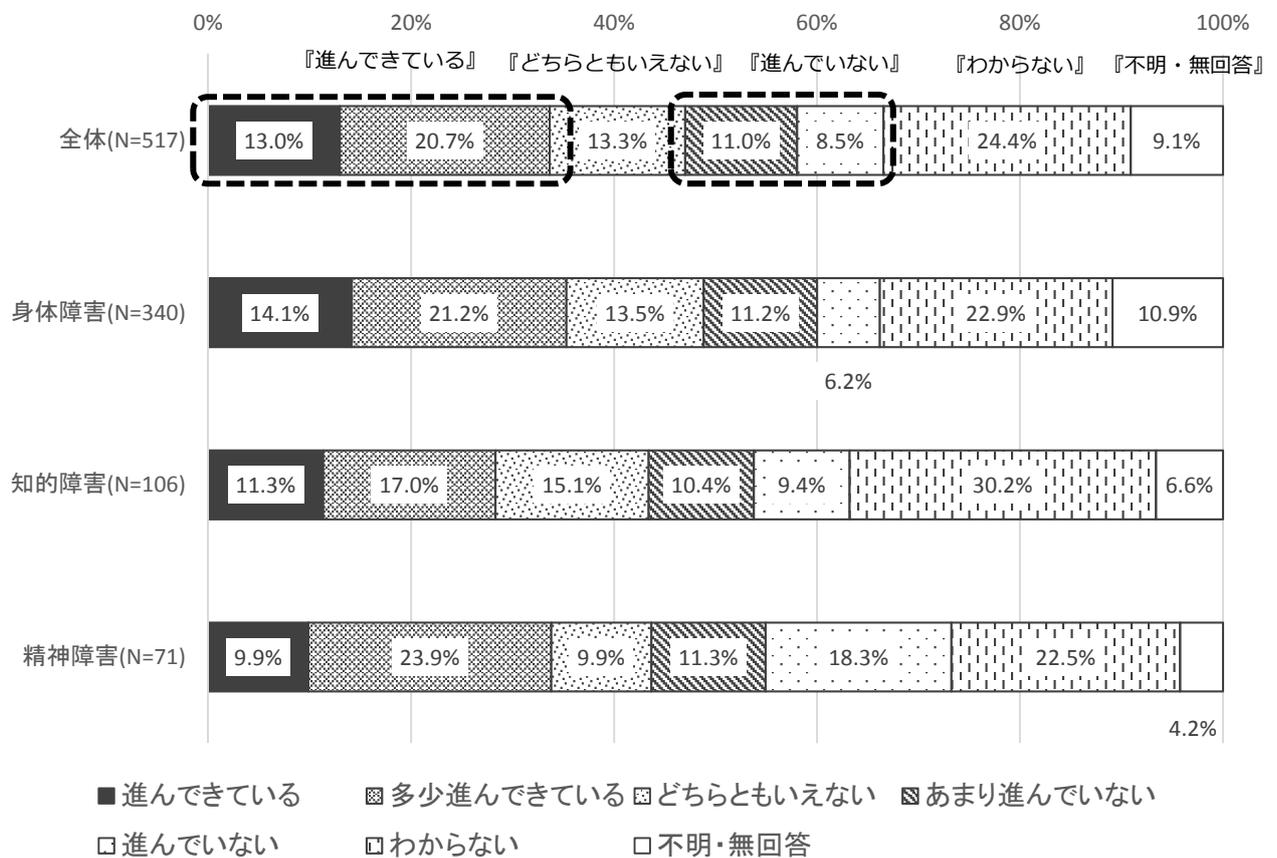
日常の援助などをボランティアが行うとしたら、どのようなサービスを受け入れたいかについて、全体では「病院等などへの送迎・外出介助」が32.7%と最も高く、次いで「部屋の掃除・洗濯」が26.7%となっています。

障害種別では、身体障害のある方、知的障害のある方は「病院などへの送迎・外出介助」がそれぞれ34.7%、31.1%、精神障害のある方は「話し相手・相談相手」が33.8%となっています。



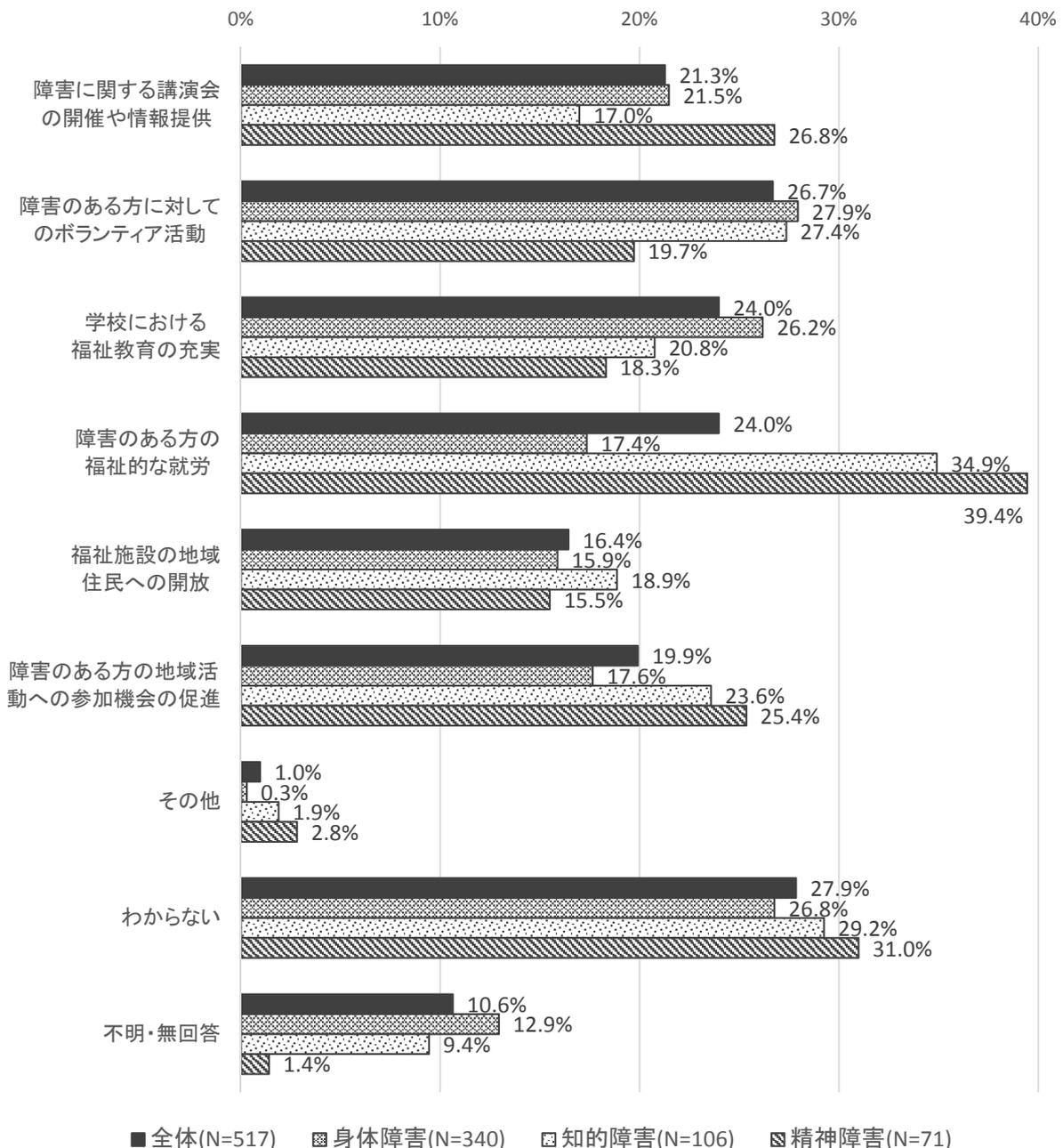
～ 第2章 障害のある人の現状 ～

「障害」に対して、広く市民の理解や地域・行政の社会的な支援が進んでいるかについて、全体では『進んでいる』（「進んでいる」「多少進んでいる」を合わせた割合）が33.7%、『進んでいない』（「進んでいない」「あまり進んでいない」を合わせた割合）が19.5%、「どちらともいえない」が13.3%となっています。



あなたは「障害」に対する市民の理解を深めるためには、何が必要かについて、全体では「障害のある方に対するのボランティア活動」が26.7%、次いで「学校における福祉教育の充実」「障害のある方の福祉的な就労」が24.0%となっています。

障害種別では、身体障害のある方は「障害のある方に対するのボランティア活動」が27.9%、精神障害のある方、知的障害のある方は「障害のある方の福祉的な就労」が、それぞれ39.4%、34.9%と最も高くなっています。



⑬ 障害者福祉施策全般について

市の障害者福祉施策全般について、あなたが重要と思う施策については、全体では、「経済的負担の軽減」が41.4%と最も高くなっています。次いで「相談支援体制の充実」が40.2%となっています。

障害種別では、身体障害のある方は「経済的負担の軽減」が40.0%、次いで「相談支援体制の充実」が37.6%となっています。知的障害のある方は「障害と障害のある方に対する理解の普及」が39.6%、次いで「経済的負担の軽減」が37.7%となっています。精神障害のある方は「経済的負担の軽減」が53.5%、次いで「相談支援体制の充実」が50.7%となっています。

